

同志社大学経済学部 同経会

同経会報

No. 91



同志社大学経済学部 同経会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL : 075-251-3524 FAX : 075-251-3136
URL : www.dokeikai.com

2025年5月 発行
編集：総務支援委員会(広報・HPチーム)
発行人：同経会会長 田堂哲志

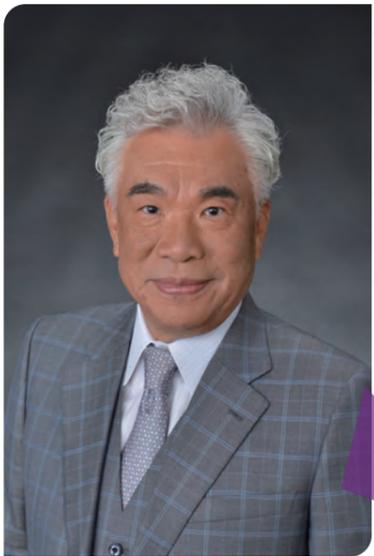
目次

Contents

同経会会長からのご挨拶	03
経済学部長からのご挨拶	04
特別インタビュー	05
総会・卒業生のつどい	13
大阪支部からの報告	15
東海支部からの報告	16
東京支部からの報告	17
しめた会からの報告	19
企画渉外委員会からの報告	21
同経会賞授与式と同経会賞受賞者からの便り	23
海外インターンシップ生からの報告	27
現役学生が語る「わがゼミ」	35
退任の教員からのご挨拶	47
新任の教員からのご挨拶	53
2024年 定時総会報告	55
企業広告と名刺広告	61
寄付へのお礼とご報告	67
2025年5月～11月のイベント案内	69
編集後記	71
同経会役員名簿	72
同経会報の郵送についてのご案内	75

同経会会長からのご挨拶

同経会会長 田堂 哲志



Greeting

1. 卒業生ならびに保護者の皆様へ

経済学部、ならびに経済学研究科を終了される皆様、このたびのご卒業を心よりお祝い申し上げます。また、お子様をこれまで育ててこられた保護者の皆様に於かれましては何よりの喜びと存じ上げます。本当におめでとうございます。

さて、卒業される皆様は今迄ご家族、社会に守られてきた訳ですが、これからはあなた方がこの世の中を守り、繁栄させてゆく立場となります。将来に向け多くの可能性を秘めた皆さんの力をご自分のためのみならず社会に貢献するために大いに発揮されることを願っています。もちろん社会にできれば何度かの人生の分岐

経済学部長からのご挨拶

経済学部長 横井 和彦



Greeting

学校法人同志社は、2025年11月29日に創立150周年を迎えます。

同志社大学は、「良心教育」を建学の精神として、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」を教育理念に掲げ、「知徳体」の全人格教育を粘り強く展開することによって、「良心を手腕に運用する」人物、つまり自治・自立の精神にあふれ、博愛精神に富み、個人の尊厳を重んずる人物、モラルに強い、高潔な人格を有する人物、そして国際社会で創造的な活動のできる人物を育成することを目的としています。

これをふまえて、経済学部では、「人ひとりの大切さ」を知り、信ずるところにしたがって行動する「良

点が続いています。容易でない判断もあります。最終的にはご自分で結論を出すしかないのですが凡そ順風満帆な人生はあるはずもなく、寧ろ困難や失敗の経験が自分の価値を高める起点になることを信じて前に進んで頂きたい。最後に経済学部を卒業したOB・OG約4万人があなた方の社会の門出を歓迎しています。これから皆さんが生きて行くうえで先輩方から様々なサポートを頂く機会が必ずあります。同経会もそうした様々な情報提供、イベントの企画運営を通じて皆さんをサポートし続けます。いつでも遠慮せずアクセスしてください。

2. 経済学部ならびに学部生の皆様へ

同経会の存在意義の一つが経済学部ならびに学部生への貢献と考えています。60年を超える活動の中で様々な企画を提案し運営して参りました。昨年度から再開した海外インターシップ(アメリカ、タイの4社に4名派遣)の支援を今年度もさせて頂きました。11月には4学部(同経会、理工会、政法会、樹徳会)の共同開催で就職支援セミナーを開催しました。手前味噌かもしれませんが価値のある企画です。25年度も企画しますので是非参加ください。同経会奨学金制度が新たにスタートします。留学支援、生活支援、スポーツ支援などに毎年310万円を拠出いたします。3月の卒業式は昨年同様に学業優秀者に贈る「同経会賞」(5名)、のほか昨年から新たに設けた、様々な外部での研究発表で優秀な成績者に贈る「アカデミア賞」(16名)、スポーツで優秀な成績者に贈る「スポーツ賞」(10名)、貴重な経験とすばらしい功績を残された方に贈る「特別賞」(1名)を表彰しました。最後に経済学部のご理解、ご支援を感謝申

心」をもった人物の育成を目標に、直線的な学びや即効性を求める教育を行うのではなく、自らの体験を通して学びとる力、学ぶことが楽しいという知的好奇心を育むことを軸に、知育・徳育・体育のバランスのとれた学生の育成をめざします。すなわち、創立者の新島襄のいう「人を植えること、人を育てること」を目的とした学部でありたいと思っています。「知識あり、品行あり、自ら立ち、自ら治むる」の精神を持った人物の涵養、すなわち、学生一人ひとりの人格を磨き、形成し、学力を含めた人間力を高める教育を、150周年を契機に、改めて展開していくつもりです。春学期には中高生や大学生など10代に絶大な人気を誇るYoutuberのでんがんさんによる講演会と、数学講座の動画配信を行います。私は、彼の次の様な考え方に魅力を感じています。

歴史上の出来事にも背景がありますよね。数学や理科の公式、定理も一緒で、時間が限られている受験においては暗記も大切だけれど、それだけだとなかなか本質を理解できない。学ぶときに公式の暗記から入る人がいますが、本質はそこじゃないんです。それがどうやって起きたのか、どうしてできたのか、成り立つのかを考えるほうがよっぽど大事。「なぜ?」「なぜわからないのか?」と考えることで、理解が深まります。

(出所)10代の心をつち掴む、教育系Youtuber「でんがん」の一生使える勉強法「失敗しても何とかなる」試行錯誤を勧める訳 — 東洋経済教育×ICT

<https://toyokeizai.net/articles/-/599860> 2025

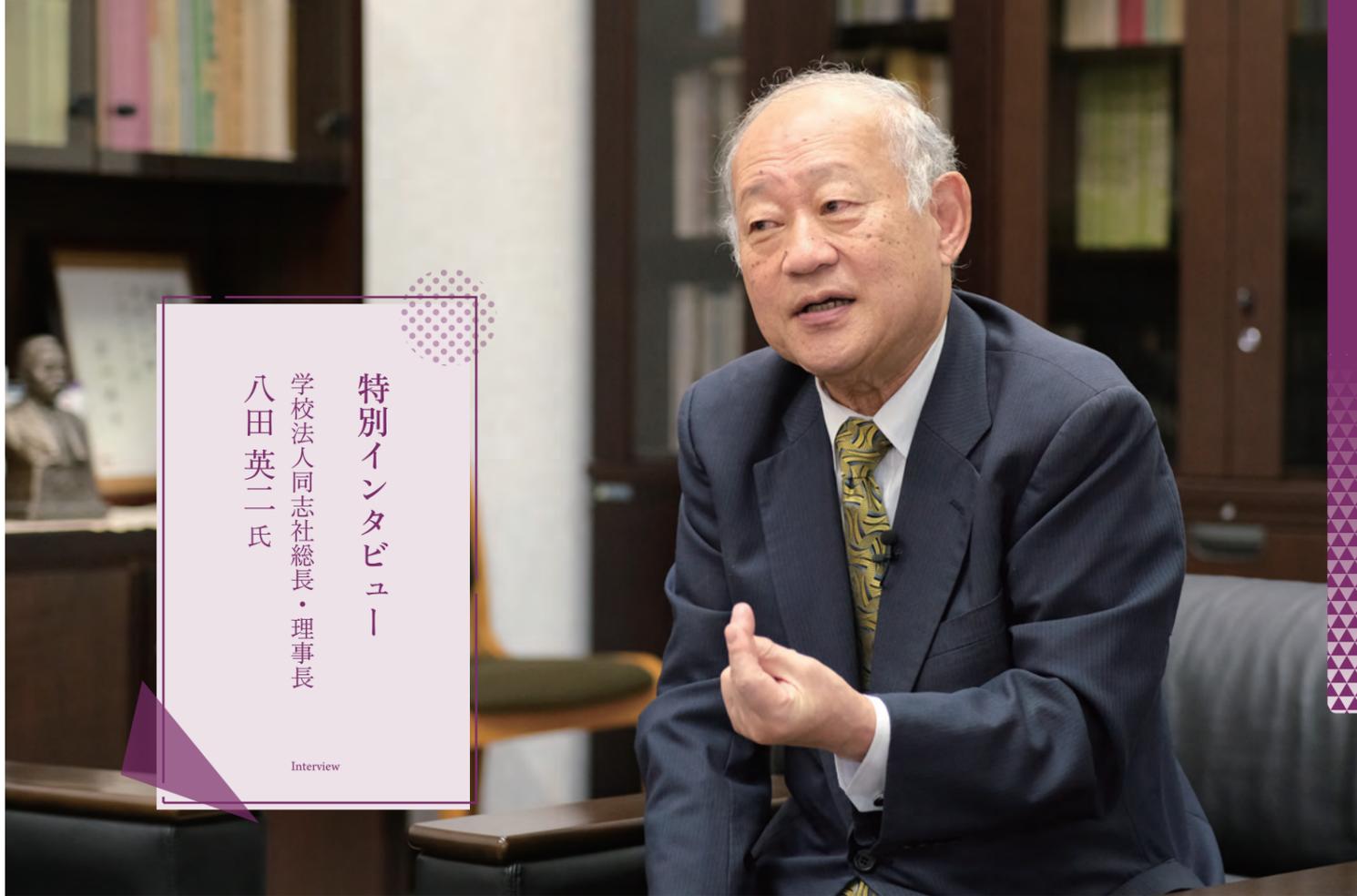
しあげます。これからも引き続き経済学部にご貢献できる企画を立案、実行して参ります。

3. OB・OGの皆様へ

同経会のもう一つの存在意義はOB・OGへの貢献と考えています。親睦はそれ自体十分に同窓組織としての意義を満たしますが、私たち同経会はOB・OGの方々とつとめてメリットのある企画をできるだけ提供することを目指しています。それが同経会の存在価値を高めることになると考えています。今年度は本当に多くの企画を立案実行して参りました。大阪支部では総会が3月に開催され講師はマクアケの共同創業者の坊垣佳奈氏を招き約110名が参加されました。更にゴルフコンペ(6月)、ビジネス交流会(9月)、若手交流会(10月)も開催しました。東海支部の総会は7月に開催され講師は経済学部学部長の横井和彦氏を招き約30名が参加されました。更に若手交流会(4月)も企画しました。しめた会は7月に開催され講師はローバー都市建築事務所野村正樹氏を招き約70名が参加されました。更にゴルフコンペ(6月)、音楽LIVE(9月)を開催しました。東京支部総会は10月に開催され講師は国際政治学者の三牧聖子氏を招き約60名が参加されました。今年度のつどい・総会は初めてホームカミングデーの前日の11月9日に開催いたしました。講師は日本サッカー協会の会長に就任された宮本恒靖氏を招き約230名が参加されました。この参加者数は同経会史上最高の記録です。このように同経会の活動は益々活発になってきました。この状況に甘んじることなく更に魅力のある企画を実行いたします。様々な企画にお一人でも多くの方が参加されることを願っています。

年1月31日取得

宗教、多様性、グローバル化などによって、世界は急激に変化しています。混乱する社会をとらえることができる人物を輩出するために、2025年度が、同志社創立150周年にふさわしい、豊かなみのある1年となるよう、経済学部は歩を進めてまいります。



特別インタビュー
学校法人同志社総長・理事長
八田英二氏

Interview

先輩方からお話をお伺いする特別インタビューです。今年、同志社は創立150周年の記念の年にあたります。そこで今回は、学校法人同志社の総長・理事長で同経会の名譽顧問でもある八田英二氏をお訪ねして、お話をお伺いいたしました。

八田英二氏

- 1949年 京都市生まれ
- 1971年 同志社大学経済学部卒業
- 1973年 同志社大学大学院経済学研究科修士課程修了
- 1977年 米国カリフォルニア大学バークレー校大学院経済学Ph.D.コース修了
- 1985年 同志社大学経済学部教授(2019年同志社大学名誉教授)

同志社大学経済学部長、同志社大学大学院経済学研究科長、同志社大学長、学校法人同志社理事長を歴任
2017年 学校法人同志社総長・理事長 現在に至る

——同志社は今年150周年を迎えますが、そもそも八田先生と同志社とのご縁はどのように始まりましたか。
私は京都生まれで京都育ちです。小学校を卒業した後、同志社中学校を受験して入学しました。それが同志社との最初のつながりです。今から63年前のことになります。
私が入学したところ、同志社中学校は現在の彰栄館の横に校舎があり、そこで3年間過ごしました。当時の校長は久永省一先生でした。

その後、1964年に岩倉の同志社高校に進学し、1967年に卒業しました。当時の高校の校長は高橋勘先生で、毎朝礼拝がありました。私が同志社中学校に通っていた時も、毎朝8時5分から礼拝があり、土曜日まで毎日行われていました。その期間、礼拝カードを提出して皆勤賞をいただいた記憶があります。同志社高校でも同じように毎朝礼拝があり、計6年間、毎朝礼拝を守ったことが印象に残っています。

同志社高校は比叡山の麓にあり、非常に風光明媚な場所でした。当時はまだ国際会議場が建設される前で、叡山電鉄で八幡前まで行き、そこから歩いて学校に通いました。現在では地下鉄が開通して通学が便利になりましたが、当時はスクールバスも運行されており、四条大宮から2台ほどのバスが学生を運んでいました。

1967年に高校を卒業し、同志社大学経済学部に進学しました。私は1967年度生で、その後も経済学部にお世話になり、現在は経済学部の名誉教授ですが、教員として45年間同志社に関わりました。

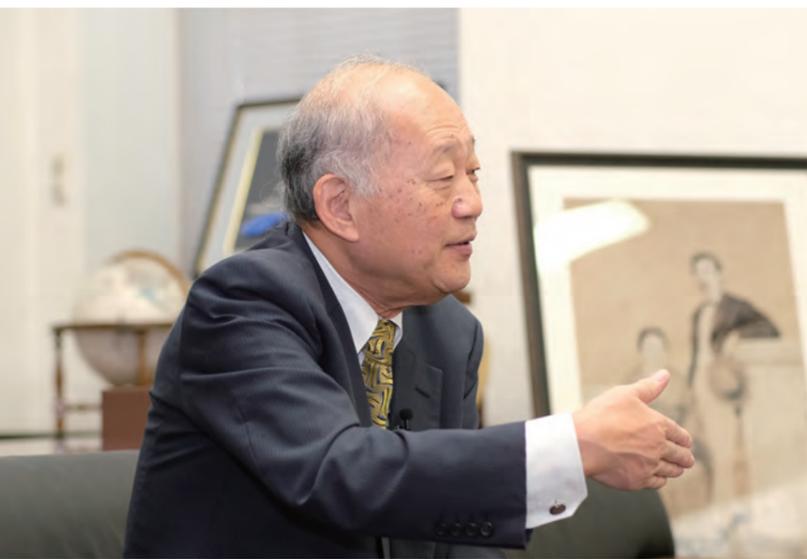
——中高時代は何か部活動をされましたか。

よく「体が大きいから運動部ですか？」と聞かれますが、

経済学を担当する形で助手として大学に残ることになりました。

私が助手になった時代は、現在と違って一度就職すれば定年まで続けられるような環境でした。現在は任期付きのポストが一般的で、3年や5年で契約が終了することが多いですね。当時、私は後期課程を修了した那馬先生とともに助手に採用されました。

その後、70歳で名誉教授となり、現在は総長・理事長として同志社の運営に専念しています。



私はE. S. S (英会話クラブ) に所属していました。その縁で大学に進学してからもE. S. Sに入りました。
大学では経済学部を卒業後、2年間で修士課程を修了し、その後博士課程に進みました。しかし博士課程1年目に、「八田君、助手になりなさい」と声をかけていただき、経済学部の助手(現在の助教に相当)になりました。
助手になって最初の3年間は自由に研究ができるということで、私の大学院の時の指導教授だった伊藤史朗先生(数量経済分析が専門)が「アメリカで勉強してきてらどうか」と勧めてくださいました。それで、助手に就任した4月から準備を始め、9月にはカリフォルニア大学バークレー校に留学しました。アメリカの大学院のPh. D. コース(博士課程)に応募し、バークレー校、UC LA、ウイスコンシン大学から入学許可をいただきましたが、バークレー校を選びました。
その後、バークレーで博士号(Ph. D.)を取得し、1977年4月に日本に戻り、同志社大学経済学部で専任講師として教員生活がスタートしました。専任講師を3年間務めた後、1980年に助教(現在の准教授に相当)、1985年には教授に昇進しました。また、1996年から1997年には経済学部長を務めました。
経済学部長時代には、同経会の役員の方々と協力し、さまざまな取り組みを行いました。それまで同経会賞は、卒業生の成績上位5人に時計を贈る制度でしたが、より学生に役立つ形を模索しました。その結果、卒業生である会社経営者の方々に現役学生向けに講義をしていただく「同経会寄付講座」を開設しました。

この講座では、経営者100人の方々にお越しいただき、学生に経営やビジネスの実践的な話をしていただきました。
同経会ではその後も学生支援に積極的に関わっていただいております。海外インターンシップとして派遣する取り組みも行われています。
——海外インターンシップには毎年約4名ほど派遣しています。ご協力いただいている企業は、ダイキンさん、みずほ銀行さん、日本コルマーさん、ITP(石田大成社)さんなどです。昨年は日本航空さんにもご協力いただきました。日本コルマーさんは中国に拠点がありますが、昨年はビザの関係で中国へは行けませんでした。そのため、ダイキンさんに急遽ご対応いただきました。
ところで大学に残って教育の道に進まれましたが、入学当初から考えておられたのですか。
もともとはそうではありませんでした。やはり大学院に進学したことが大きな転機でした。当時は就職が非常に活発な売り手市場で、大学3年の10月頃から就職活動を始め、4年生になるとほとんど全員が内定を得るような状況でした。しかし、私はあまり就職する気がなく、「ブラブラするわけにもいかないし、大学院に行こうか」という軽い気持ちで進学しました。
当時、経済学研究科に進学した同期は5人だけでした。その中には、同志社高校で教員を務めた饗庭先生もいました。私は大学院で伊藤史朗先生のもとで計量経済学を学ぶうちに、「経済学は面白い」と感じるようになり、博士課程まで進みました。そして、「八田さん、残りなさい」と声をかけられ、統計学や計量経

——そういう意味では、非常に長い間、同志社に関わっていらっしゃるんですね。

そうですね。12歳で同志社中学校に入学して以来、63年間、同志社にどっぷり浸かっています。最初に助手として研究を始めた頃は、研究室が明徳館の5階にありました。その後、光塩館、良心館と移りました。良心館はかつて同志社中学校の跡地に建設された建物です。

私が助手になった当時、経済学部の教員は約40名でしたが、現在は50名以上に増えています。その中には、任期付きの助教や特別客員教授、客員教授なども含まれています。他の学部も同様に教員数が増加していますね。

——同志社も以前に比べて学部が増えていますね。

そうですね。1949年から2004年までの55年間、同志社は6学部体制でした。具体的には、神学部、文学部、法学部、経済学部、商学部、工学部です。

私が1998年に学長に就任した際、「新しい学部を作ろう」という方針を打ち出しました。まず、2004年に政策学部を創設し、翌年には文化情報学部を設置しました。また、工学部を理工工学部に改編し、文学部社会学科を社会学部に昇格し、新たに生命医科学部、心理学部、スポーツ健康科学部、グローバル・コミュニケーション学部、グローバル地域文化学部を設立しました。これらの8つの学部は、私の在任中に新設したものです。学長として15年間在任していた間に、8つの学部を作ったことが大きな成果だと思っています。さらに、2つの小学校も設立しました。それまで同志社には幼稚園と4つの中高一貫校がありましたが、小学

の若者人口が増えることになりまし」と提案しました。この提案が受け入れられ、染織試験場の土地を譲っていただくことができました。

そして、中学校の移転に伴い、その土地に新しい建物を建設し、良心館と名付けました。その結果、文系学部の1・2年生を京田辺キャンパスから今出川キャンパスに全員戻すことが実現しました。

現在、神学部、文学部、社会学部、法学部、経済学部、商学部、政策学部、グローバル地域文化学部は、1年生から4年生まで今出川キャンパスで学んでいます。



校がありませんでした。そこで、まず岩倉に同志社小学校を作り、もう一つは木津川市に同志社国際学院初等部・国際部を設立しました。この国際学院は英語教育に重点を置いた小学校です。

また、京田辺キャンパスの活用についても大きな見直しを行いました。当時、文系学部の1・2年生は京田辺キャンパスで学んでいましたが、それを今出川キャンパスに戻すことを決めました。このため、同志社中学

一方で、残りの学部は京田辺キャンパスに完全に移るという体制で運営されています。

これらが、私の学長時代に取り組んだ3つの成果といえるかもしれません。

——非常にいいことをなされたと思います。

これまでの同志社の歴史を振り返って、先生が感じておられること。そして、これから未来にどのような展望をお持ちか教えてください。

同志社大学には二つの大きな責任があると考えています。一つは、最先端の学問や専門的な知識を学生に提供すること。これは、高等教育機関として当然果たすべき責務です。そしてもう一つは、人格形成です。同志社大学が人格形成や徳育に基礎を置いているのは、キリスト教主義に他なりません。この二つは、同志社大学がこれからも守り続け、維持していくべき重要な使命です。

このような教育を実現するためには、学問的に最前線で活躍する人物を外から招き入れると同時に、キリスト教主義に基づく徳育をさらに深めていく必要があります。同志社大学の原点には、新島襄の高い志と情熱がありました。彼は1874年、アメリカ・バーモント州の小さな町ラットランドにあるグレース教会で、多くの信者たちに向けて「日本にキリスト教主義の大学を作りたい」と訴え、5千ドルという当時としては大金を寄付として集めました。

その中には有名な婦りの汽車賃を寄付した貧しい農夫の話もありましたけど、そのようなキリスト教主義の大学をこしらえたいというのが新島の大きな考えでした。アメリカの地方の人々にとって、日本はどこにあるのかさえない遠い国だった筈です。それでも彼らは、

校に協力をお願いし、高校との一体化ができる岩倉へ移転していただきました。

そしてもう一つの取り組みとして、烏丸上立売のさらに北に位置する京都市染織試験場の土地を取得しました。当時、榊本市長やその後の門川市長にお願いし、「この土地を売っていただけませんか。その代わり、文系学部の1・2年生を京田辺キャンパスから今出川キャンパスに戻します。これにより、京都市内

キリスト教主義の大学を設立するという新島の夢に共感し、多額の寄付を惜しみませんでした。この5千ドルは、現在の日本円に換算するとおよそ5千万円から1億円に相当する価値があったといわれています。

また、同志社の初期を支えたのは新島襄だけではありません。同志社の初期の播種期に大きな影響を与えたのが熊本バンドと呼ばれる熊本洋学校の生徒達です。彼らはキリスト教に触発され、熊本城外にある花岡山で奉教の誓いを立てますが、熊本の市民から非難を受け、熊本を離れて同志社に集まりました。彼らは非常に優秀な学生達で、その後の大学運営に深く関わりました。

さらに、アメリカンボード(プロテスタント会衆派の海外伝道団体)の宣教師たちも同志社に大きな影響を与えました。新島襄自身もアメリカンボードから派遣された宣教師として活動し、同志社での教育に尽力しました。私は現在、第18代総長を務めています。過去には熊本バンド出身の方々が同志社の発展に大きく貢献しました。例えば、第2代総長の小崎弘道氏は熊本バンドの一員で、3代目総長の横井時雄氏(横井小楠の子息)も同様です。第4代、第5代総長は少し異なりますが、第6代総長の下村孝太郎氏は熊本バンドの一員で、科学者としてハリス理化学校に携わり、大阪ガスの社長も務めました。彼も非常に優秀な人物でした。さらに、第7代総長の原田助氏は、彼の総長在任中の1912年に同志社大学が設立されるなど、重要な役割を果たしました。そして、第8代総長の海老名弾正氏もまた熊本バンド出身で、これらの人々はいずれもキリスト教に触発され、同志社に集まり、新島襄の死後も同志社の運営を担い続けました。

実は、新島襄はアメリカンボードと呼ばれるキリスト教



プロテスタント会衆派の海外宣教師として日本に派遣されてきました。興味深いことに、新島襄は同志社を設立した後も、同志社から給与を受け取ることはありませんでした。彼の給与はアメリカンボードという海外伝道団体から支給されていたのです。

同志社大学を設立した二人の人物、新島襄とJ. D. デイビスは、どちらもアメリカンボードの派遣による宣教師でした。また、ラーネッド記念図書館のD. W. ラーネッドや女子大学の設立に尽力したA. J. スターク

ウェザーなど、数多くの宣教師たちが初期の同志社を支えました。こうした人々の努力と献身により、同志社は「良心教育」や「キリスト教主義に基づく徳育」という建学の精神を確立しました。

同志社は、こうした教育理念を持つ私学として、知育と徳育の両立を目指してきました。これは幼稚園から大学まで一貫した建学の精神として根付いています。他のミッション系大学、例えば青山学院や立教学院も、アメリカから派遣された宣教師たちによって設立され、

同様の理念を共有しています。ただ、新島襄が特徴的なのは、同志社が牧師養成のためではなく、人格教育を通じて幅広い人物を育てることを目指していた点です。同志社大学は今後も、最先端の学問を教えると同時に、キリスト教主義に基づく人格教育をさらに発展させていくべきだと考えています。

——これからちょうど150周年を迎えますが、次のステップはどのようにお考えでしょうか。

150周年には、大きく3つの意義があると考えています。1つ目は、この150年の歴史を正確に把握し、記録として残すことです。過去を振り返り、次世代にしっかりと伝えることは非常に重要です。

2つ目は、新島襄が掲げた教育の理想や理念に対して、どれだけ近づけているのかを検証することです。新島襄はかつて勝海舟に「教育の目的を完成させるには何年かかるか」と問われた際、「200年」と答えました。また150年にすぎませんが、この節目に理念に向けて正しく進んでいるかをチェックし、外れている部分があれば修正する必要があります。

3つ目は、200年、300年先を見据え、同志社が進むべき方向を明確にすることです。今後の展望を教職員や学生と共有し、一体感を持つて進んでいくことが重要です。

現在、学内でも「これから同志社はどうあるべきか」「何を重視していくのか」「どのような人物を育てるのか」といった議論が進められています。特に、少子化が進む中で18歳人口は2040年には77万人程度まで減少すると予測されています。大学入学者数の減少に伴い、定員を充たせない大学が増えるのは避けられません。このような環境下で、同志社がどう生き残り、発展していくかを真剣

に考える必要があります。

具体的には、留学生や社会人を受け入れる門戸を広げることが一つの方法ですが、それも簡単ではありません。例えば、留学生を増やすためには日本語教育が必要で、社会人の受け入れには柔軟なカリキュラムが求められます。

現在、同志社大学では年間6千名以上の学生を受け入れています。この規模を維持するためには、学部のカリキュラムや教員の採用方針についても再検討が必要です。

——その問題は、日本全体で抱える大きな課題ですね。その通りです。少子化は避けられない現象ですが、日本全体の教育界にとつては非常に大きな問題です。同志社としても、これからの時代に適応しながら教育の質を維持・向上させる取り組みが求められます。

私の頃は大学進学率、つまり高等教育機関（大学や短大）への進学率が17%程度でした。6人に1人が進学する時代でしたが、現在は約60%に達しています。10人のうち6人が大学に進学しているわけです。ただし、少子化の影響で進学者の母集団そのものが減少しています。同志社は京都に位置しているという地の利がありますが、地方の私立大学は非常に厳しい状況に置かれているかもしれません。

——京都に大学があるという点では、京都への憧れも若い人たちにとって大きな魅力だと思います。東京とはまた違った良さがあります。

そうですね。若い時に東京のような賑やかな環境よりも、京都のように「学生の街」と言われる静かで落ち着いた場所が勉強するのも良いのではないのでしょうか。京都の街は学生に非常に優しい街だと思います。



——御所の北側にキャンパスがあつて、昔は御所のグラウンドで体育の実技をしていました。そういう環境を持つ大学はほとんどありませんから、特別な魅力がありますね。

本来、大学には運動施設を備えるべきですが、同志社の今出川キャンパスは敷地が限られているため、そうした環境は非常に貴重です。

また、同志社には長い歴史があり、その分卒業生が多いことも強みです。例えば、経済学部には同経会、商学部には樹徳会、法学部には政法会といった卒業生組織があり、非常に活発に活動しています。こうした組織は、現役学生との交流や支援にも熱心に取り組んでいます。新設大学ではこうした卒業生のネットワークを築くまでには時間がかかります。

ですが、同志社のような歴史ある大学ではすでに大きな財産となつています。

京都にあること、そして長い歴史があること、それが同志社の大きな強みです。

——これまで教育者として長い間ご活躍されてきましたが、教育者として大切にされている信条はどのようなものですか。

やはり「自治自立」というところですね。同志社では、「良心を手腕に運用する自治自立の人物」を育てることを目指しています。これは、建学の精神として掲げられているキリスト教主義に基づく徳育に通じるものです。もちろん、同志社が目指しているのはクリスチャンを育てることではありません。そうした価値観を持った、良心を実際に活用できる人物を育てることが目的です。これは、新島襄が夢見たことでもあります。

高度な経済理論を教える経済学部であれば、経済知識を提供するのは当然の役割ですが、それだけでは不十分です。この徳育、つまり人格形成の部分も同時に大切にしなければなりません。ただ知識だけを教えるだけでは卒業させるのは、私は間違っていると考えます。人格教育、つまり徳育を中心に据えた教育が必要です。

このような教育は、私塾だからこそできることだと思います。私学では、建学の精神を掲げ、それに共感した学生を集めることができます。一方で、国立大学では宗教的な価値観を基にした人格教育はできません。そうした点で、私学は特徴を持っています。

同志社は「キリスト教主義に基づく良心教育」を掲げています。この理念をどんどん浸透させていかなければならないと考えています。

その一環として、例えば「チャペル・アワー」のような取り組みがあります。この時間では、さまざまな講師が講演を行います。こうした活動は、単に専門知識を教えるだけでなく、学生の価値観や人格形成に寄与する非常に良い方法だと思います。

また、学生生活全体が人格形成に影響を与えると考えています。どこに住むのか、どんな友人と過ごすのか、どんなクラブ活動をするのか、さらには何を食べるのかまでが、人格形成に関わっているかもしれません。同志社大学では、経済学部で経済知識を教えるだけでなく、それ以外の面でも学生生活に関与し、支援することが重要だと考えています。

学生が授業を通じて知識を深めるのはもちろんですが、授業以外の時間や経験が人格形成に大きく寄与する点を忘れてはならないと思います。

—— 大学を卒業して社会に出た場合、知識だけでなく、**人格も含めた総合的な能力をどのように自分でトレーニングしていくかが非常に重要だと思います。**

そうですね。経済学部の卒業生たちから、「大学で学んだケインズの経済学が直接役立った」という話をよく聞きますが、大学時代に「こういう本を読んだ」「こういう先生との交流があった」「こういう仲間と一緒に何かに取り組んだ」といった経験が、彼らの人格形成に大きな影響を与えているのだと思います。こうした経験が、結果的に社会に出た後の生き方に大きな意味を持っているのではないのでしょうか。

—— 仮説を立てて、それが正しいかどうかを考え、検証する力も大切です。物事を深く考える能力は、大学

時代に培われる部分が大きいです。

そうですね。そのような思考力を育むことは、大学教育の重要な役割の一つです。

大学としても、そういった人格形成や学生生活のサポートにもっと関与できれば理想的だと思いますが、同経会のような組織が、学生とより深いつながりを持ち、経済学の知識以外の部分でも何らかの支援をしていただければ、これ以上素晴らしいことはないと思っています。同じ経済学部で学んだという共通点をもつて、卒業生の方に積極的に関与いただけないかなと思っています。

—— 最後に、先生から卒業生への**激励やはなむけの言葉**をいただけるとありがたいです。

皆さんの人格形成の原点の場が、同志社大学経済学部であったということに大切にしたいと思っています。もちろん、ここで吸収された経済の知識も重要ですが、原点をいつも見つけてほしいし、卒業されればいつでも原点に戻ってきてほしい。ここは皆さんのふるさとであるということを強調したいです。同志社大学経済学部はこれからも永遠に続きます。

—— 本日は多岐にわたり貴重なお話をいただき誠にありがとうございました。





11月9日（土）に同志社大学経済学部「卒業生のつどい」が、ホテルオークラ京都にて開催されました。今年は、開催時期がホームカミングデーに合わせた11月となり、会員のみなさまの熱心なお声がけもあり、例年の倍以上となる200名超もの参加者を得て盛大に開催されました。

総会は、会則にのっとり田堂哲志会長（昭和52年卒）が議長となり、議事が進められました。まず、第1号議案「2023年度事業報告並びに決算報告」が上程されました。2023年度の主な活動報告として、会員数の増加、財務基盤の強化（寄付金210万円獲得）、SNSの運営状況、年間総額310万円の同経会奨学金制度が正式に経済学部で承認された件、同経会賞が充実し27名に表彰を行った件、企業と共同で行った学生プロジェクト、海外インターンシップの実施などが報告されたあと、「2023年度決算報告」が、鍵圭一郎専務理事（平成1年卒）より説明され、横田聡監事（平成3年卒）より会計監査報告がありました。その後、満場一致で議案通り承認されました。

次に、第2号議案「2024年度事業計画並びに予算案」が上程され、前年度に引き続いての事業の説明のほか、新たな企画としての4学部同窓会合同での「就職支援プロジェクト」の実施や、海外インターンシップの新スポンサーにJALさまがついていただいた件、また、しめた会の活動が活発に行われ、ゴルフコンペやライブイベントが開催された件も報告されました。その後、満場一致で議案通り承認されました。

最後に第3号議案「2024年度退任役員と新任役員について」が上程され、全体的に若い役員が増え、組織の若返りが図られた旨の説明があり、その後、満



場一致で議案通り承認されました。

総会全体を通じて、奨学金制度を続けていくためのOB・OGからの寄付金による財源確保の推進や、海外インターンシップの財源枯渇の問題、内部留保金の活用と新規支援者の開拓の必要性、情報発信コストの増大のため、紙媒体からデジタル媒体への移行による経費削減の推進などが今後の課題としてあげられていました。

総会に引き続き、会場を移して、公益財団法人日本サッカー協会会長の宮本恒靖氏（平成13年卒）によ

る講演会が行われました。宮本氏は2002年と2006年のワールドカップに出場し、キャプテンを務めた経験を持ち、2024年に戦後最年少の47歳で協会会長に就任されました。

最初にアイズブレイクとして、宮本氏と参加者全員がジャンケン大会を行い、勝ち残った2名が、宮本氏と名刺交換&記念撮影をすることとなり、会場は大いに盛り上がりました。

その後、自身のサッカー選手としての経験と、現在の協会会長としての視点から、多角的な視点を持つことの重要性について講演されました。特に、選手時代の評価基準の理解、監督としての視点、そして現在の協会運営における多角的な視点の重要性を強調されておられました。最後に宮本氏は、サッカーを通じて日本のスポーツ文化を発展させ、2050年までにワールドカップ優勝を目指すというビジョンについても語られました。

続いての懇親会は、まず、八田英二総長・理事長からご祝辞を頂戴し、同志社大学の歴史と教育理念についてご自身の思いも含めてお話しされ、2025年11月に開催される創立150周年記念式典についてもご案内をいただきました。続いて、小原克博学長からもご祝辞を頂戴し、その中で、経済学部の卒業生の活躍例としてダイキン工業の井上名誉会長の事例を挙げられ、同志社大学の自由な学風と責任ある人材育成についてお話をいただきました。

その後、土橋純二郎副会長（昭和58年卒）発声のもと一同乾杯の後、開宴となりました。

今年は、例年の倍以上の参加者がつどい、また、特に若い年代の参加者が多く大変盛り上がりました。また、



現役学生も約30名が参加し、OB・OGとの交流を楽しんでいました。また、会の後半では抽選会も催され、会場は活気にあふれていました。最後に、中村恭俊副会長（昭和60年卒）が中締め挨拶をされ、つどいはめでたくお開きとなりました。次年度は例年通り7月に開催されます。皆さまとお会いできることを楽しみにしています。





東海支部からの報告 「東海支部の活動報告」

文・同経会東海支部長 岩村 稔
(1979年卒)

Report

今年度の東海支部の活動は従来実施している「東海のつどい」に加え若手交流会を開催しました。

第4回東海支部総会・つどいは2024年7月20日(土) 11:00~13:30、名鉄グランドホテルにて開催しました。真夏の暑い時期での開催となりましたが30名の校友にご参加頂きました。第一部は東海支部総会を実施し昨年の活動報告と2024年の活動内容報告を行いました。今回初めての総会でしたが東海支部の活動内容を理解頂いたので次年度以降も継続実施します。第2部では記念講演を横井和彦 同志社大学経済学部長にお願いし「米中貿易(戦争)からみえてくるもの」という演題で話を頂きました。特に前トランプ政権下での中国への関税対応が逆に米国にも影響を与えたとの説明もあり2025年に復帰するトランプ新政権の米中関係がどうなるか懸念されます。第3部は懇親会・抽選会で盛り上がり、同志社チャプ・記念撮影で終了。

今回は夏の暑い時期の開催になりましたので来年度の開催時期は再度検討いたします。

若手交流会については東海支部若手執行理事による企画で4月と12月の2回開催しました。若手卒業生の方に同経会活動に気軽に参加頂けるような企画にしました。出席者も経済学部卒業生に限らず他学部卒の方も受け入れました。

4月はバーベキューを久屋大通庭園フラリエにて実施し25名に参加を頂きました。新卒者や子供連れもあり始めての企画で盛り上がりました。12月はレストランFLOW loungeを貸し切りにしクリスマス会を実施し、17名の参加を頂きました。自己紹介

やゲームで盛り上がり閉会後も2次会に10名ほど繰り出しました。若手交流会を通じて参加頂いた方に同経会活動に興味を持ってもらえたいと思います。来年度も楽しい企画を計画・案内しますのでご参加ください。



大阪支部からの報告

文・同経会大阪支部 支部長 清水 友紀
(平成6年卒)

Report

2024年度は大阪支部として主な活動実績は以下の通りです。

①3月11日 同経会大阪支部のつどい 講師・株式会社マクアケ 共同創業者/取締役 坊垣佳奈氏 参加者 123名

②6月29日 三学部ゴルフコンペ 主幹・同経会参加者25名(うち経済8名)

③9月28日 ビジネス交流会大阪(三学部合同) 主幹・樹徳会大阪 参加者・60名(うち経済21名)

④10月4日 若手BBQ 20名(35歳以下) 8名若手エントリー+大阪役員7名 計15名

まず①大阪支部のつどいでは若手や初参加の方も多くご来場いただき過去最高の参加人数となりました。ご講演いただきました坊垣さんのお話も大変好評でした。②今回で3回目となる三学部ゴルフコンペ、優勝は政法会でした。同経会は過去、一度も優勝できておりません。ゴルフに自信のある皆さま、ぜひ同経会チームにお力をお貸しください!!!

③三学部ビジネス交流会は3回目を迎えました。こちらの企画は関西在住のOBOGを中心にビジネス交流を目的にした名刺交換会です。3時間と限られた時間ですが熱心に交流されており実際にビジネスに繋がったケースもあります。今後も開催してほしいとの要望を多数いただきました。次回は同経会大阪支部が幹事となります。④は若手との交流を目的にした初企画です。若手(35歳以下)参加者と大阪支部役員との懇親も図れ、支部や同経会本部の活動内容も直接お伝えすることが出来ました。

2025年度も会員の皆さまが楽しく集える会を継続して企画して参ります。ご参加いただきました皆さま

ま本当にありがとうございました。最後になりますが運営にご尽力いただきました大阪支部の役員の方々にも心より感謝申し上げます。



東京支部からの報告
 「2024年(第20回)
 同経会東京支部総会・
 東京のつどい開催報告」
 文・東京支部長 田村憲
 (昭和58年卒)

Report



2024年10月3日(木) 18:30〜霞が関、日本記者クラブ10階ホールにて開催いたしました。当日は、幅広い年代から58名の校友にご参加いただき盛会となりました。

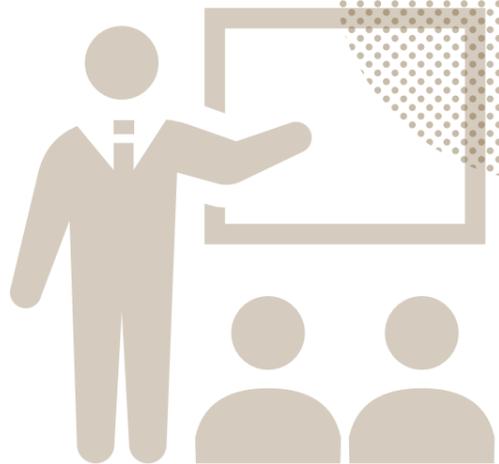
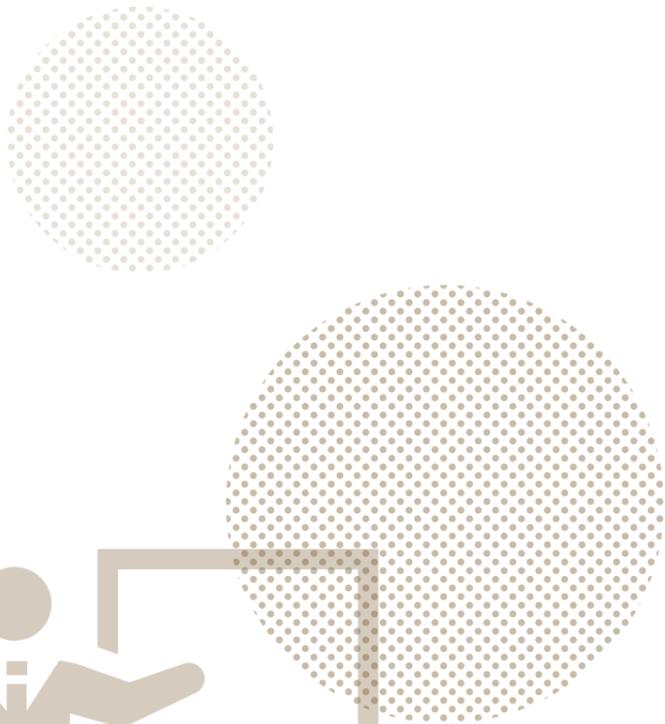
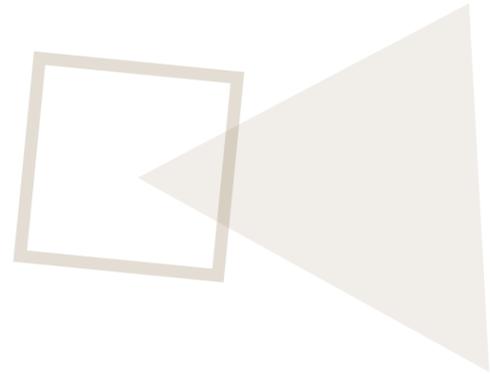
最初に東京支部総会において前年度活動報告並びに今年度計画と予算についての報告及び新任・退任役員
 の報告を行いご承認いただきました。

続く今年の講演会は、11月の米大統領選挙を控え、アメリカ政治・外交の専門家である同志社大学グローバル・スタディーズ研究科准教授三牧聖子先生にスピーカーをお願いいたしました。新しいアメリカを求めるZ世代が与える米大統領選挙への影響及び国際秩序の行方、あるべき日本の立ち位置などについてご講演をいただきました。最新のグローバルなリソースからの情報を基に「法の支配」を唱えながらイスラエル・ガザ問題でダブルスタンダードの立場を取らざるを得ない民主党バイデン・ハリス陣営の苦しさ、Z世代・リベラルな支持層からの失望感など大変興味深いご講演をいただき、現在の投票結果を踏まえアメリカの大きな流れとグローバル社会へ与える影響、揺らいだ「法の支配」を日本はどう考えて、どう行動していくのか示唆に富むご講演となり、出席者皆様から高いご評価をいただきました。

場所を宴会場へ移し田堂哲志同経会会長、同志社大学経済学部長横井和彦先生からご挨拶いただき三牧先生にもご参加いただき懇親会にて親睦を深めました。田
 堂会長からは、同経会賞、及び新設された奨学金制度



の紹介があり同経会としての大学支援の取組や今後の活動方針についてお話いただきました。
 その後、グルメギフト券や三牧先生の著書「Z世代のアメリカ」の抽選会、志井副委員長の同志社チアアの後カレッジソングを全員で斉唱、帰りには同志社ハンカチをお土産にお持ち帰りいただき、楽しく和やかな会となりました。



「しめた会」の活動報告

文・宮村定男
(昭和56年卒)

Report



2024年度の「しめた会」の活動について、「しめた会」が創設されて10年目を迎えている事から過去の経緯を振り返りながら、同経会組織体の活性化や行動の活発化を目指した活動内容を報告させていただきます。

「しめた会」は2014年に若手同経会員の増強を目指して新島襄先生の幼名である七五三太にちなみ新しい親睦団体として創設されました。そして若手の方々に声をかけ同経会自体の認識を深めてもらうように、「しめた会」の講演会・懇親会を継続的に実施してまいりました。その中であって同経会の方針として活動エリアの拡大とイベント開催の活性化を目指すこととなり、「しめた会」としても同経会の役員である執行理事の若手の増員を行い、そのメンバーからの新企画・提案について議論を繰り返して初企画を実施に繋げて参りましたのでその内容について報告致します。

まず初企画のスタートとして前回の同経会報でも報告しました同志社出身者が経営する飲食店で2024年3月8日(金)に「同志社グルメ選交流会」を開催いたしました。

続いて「第1回ゴルフコンペ」を2024年6月1日(土)にダイヤモンド滋賀(滋賀県甲賀市土山町)で6組22名で実施。しめた会初参加の方も結構おられスポーツを通じて横の繋がりを強めることができました。

次に「第8回 しめた会」を2024年7月27日(土)にからすま京都ホテルで開催し総勢70人を超える方にご参加をいただき、今回から現役学生の人達も参加対象としたことから年齢的にも大きく幅が広

をいただき、建築のみならず「本物」にどれだけ触れて、今見ている世の中よりも広いフィールドでモノ・コトに触れる事において知見が深まり、よりクリエイティブな発想を描いていけると感じた方もおいでになるようです。本当に素晴らしいご講話をいただいたことに心から御礼を申し上げます。懇親会では若手の参加のメンバーが増加してきたことから、始めてお会いになる方も多くなり、積極的に名刺交換を行いながら意見交換も活発にされている姿が大変心強く感じておりました。

次に初企画の音楽ライブとして「第1回コラボライブイベント」を2024年9月7日(土)にライブハウスのモダンタイムズ京都(京都市中京区木屋町三条上がる)にて12時30分〜14時30分で開催いたしました。出演者は同志社大学軽音楽部のThe Thir d Herd Orchestraと「しめた会」のメンバーで結成したバンド(バンド名・The Koryasimeters)の共演で実施しました。60人強の方にご参集いただき会場は満席で大いに盛り上がり、生の演奏に耳を傾けながらアルコールと共に会食も楽しんでいただきました。

以上のように新企画も実施してまいりましたが、2025年度も同様に取り組んでまいり所存です。その案内と勧誘は同経会ホームページに掲載いたしますのでたくさんの方にご参加いただく事を心待ちにしております。



がりました。第1部の講演会の講師には同志社大学法学部出身者で京都にて一級建築士事務所「株式会社ローバー都市建築事務所」を運営されている野村正樹様をお迎えしました。野村様は200件を超える町屋再生を含め住宅・店舗・社屋・医院等500件を超える設計施工実績を持たれている方で、雅の現代空間のプロデュースを目指して、心のやすらぎと京都の持つ伝統美を生かすデザインを提供し、新しい文化と豊かな街づくりに取り組んでおられます。その思いでお話



企画渉外委員会からの報告

文・副会長・企画渉外委員長 中村恭俊
(昭和60年卒)

Report



企画渉外委員会では経済学部及び学部生・大学・他学部同窓会等々と連携して学生の教育や学生生活全般の向上、また学部、大学へのお役立ちに資するプロジェクトを推進しております。

2024年度は以下のプロジェクトの推進、実行を展開してまいりました。

1, 同経会奨学金制度の制定

2023年度より経済学部執行部と検討を重ねてまいりました奨学金制度につきまして2025年2月に第1回目の奨学金授与を行いました。

①生活支援プログラム 2名に90万円(1人30万円×3)

②留学支援プログラム 8名に170万円(20万円×7, 10万円×1)

③トップアスリート支援プログラム 該当者なし

これらの奨学金は返済不要の支給型であります。対象学生の選考に当たっては①、②については経済学部からの推薦を受け、③については同志社スポーツユニオンからの推薦(選考基準については年代別も含むナショナルチームメンバーまたはその候補)を受けた学生を同経会として最終決定するものであります。

今回が第一回目であり、予算枠として310万円を準備していましたが260万円と未達となり、支給までの過程で諸々の問題点も見出すこととなりましたので今後も学部執行部と協議を重ねてより充実した奨学金制度に仕上げていく所存であります。

2, 4学部同窓会合同就職セミナーの開催

こちらも今年度初めての試みとして同経会、政法会(法学部)、樹徳会(商学部)、理工会(理工学部)の4学

にはパネラーの方も混じってお弁当を食べながらコミュニケーションをはかっていたことができました。当初の申し込みは64人でしたが、今の学生気質か当日のドタキャンや連絡のない欠席で最終参加者は38人となりました。初の試みとしてこの参加人数も含めてまだ評価はできませんが、2025年6月にも第2回目を開催(テーマは変更)した上で検証したいと思っております。

3, 学生プロジェクト

経済学部のカリキュラムから独立したことから自由度の高いテーマを選ぶことができるよう今回は「やおよろず文学賞」の広報・運営の手伝いを経験致しました。この文学賞は京都を舞台とした短編小説を対象として新人作家を発掘する文学賞です。11月9日に梨木神社にて授賞式があり、そこまでの準備として(株)らくたび・若林代表から京都の文化についてのレクチャーを受けたり、イベントで使用する竹材を放置竹林にて伐採・運搬したり各会議に参加、また同経会のFacebookを活用して同賞の宣伝活動等色々な経験を積むことができました。

学生プロジェクトに協力してやろうという同経会会員の方々がおられました是非とも同経会事務局までご一報いただければ幸いです。

4, 同経会賞(アカデミア賞・スポーツ賞・特別賞)について

本賞も成績優秀者だけでなく各分野で顕著な成果をあげられた学生を顕彰するようになり3回目となり、先生方含め学部内での認識も徐々に浸透してまいりました。詳細は23ページをご参照ください。



受賞者の中には公認会計士試験合格4人、権威あるディベート大会での準優勝、同志社150周年を盛り上げるアイデアコンテストでの入賞者や諸々の権威ある学術的コンクール等での上位入賞者で8ゼミにわたっています。またスポーツ賞では体育会所属の経済学部生の全国水準での活躍は他学部対比少ないのですが、今回は京都府選抜チームに選ばれた上で全国制覇した学生も含まれ10人の全国トップクラスの戦歴をおさめた学生を顕彰することができました。

5, 同志社創立150周年記念事業募金に100万円の寄付を実施

学校法人同志社の募集されている掲題募金に同経会として100万円の寄付を行いました。新島裏アニメ「20



部同窓会の共催にて全学年を対象とした就職支援セミナーを2024年11月19日に寒梅館地下A会議室にて開催致しました。

当日は円城新子さん(総合政策科学研究科在学中、(株)ユニオン・エー代表取締役社長)による基調講演「働くとは」に続き、若手卒業生6名による就職戦線奮闘記をパネルディスカッションしていただき、ついで中堅卒業生で女性管理職、弁護士、転職経験者、学者(玉井副学長・学生支援機構長に本学卒業生として参加いただきました)等々によるパネルディスカッションを展開していただきました。最後は数名のチームに分かれ、各チーム

0年の夢を見た」の制作資金についての相談が法人よりありました。法人のトップは同経会の名誉顧問でいらつしゃいます八田先生であり、監修のリーダーを横井経済学部長がお務めになること、またこのアニメは同志社関係各学校の授業等で活用されるものであり、100万円以上の寄付者についてはアニメのエンドロールに名前が掲載されるということで、同経会II経済学部への認識度アップにもつながることと判断し寄付をさせていただきました。

経済学部在学する学生達に少しでも有意な経験をしてもらえる機会を提供するとともに、経済学部にお役に立つ企画を実現し、学生達にも経済学部にも喜んでもらえる同経会になるよう前進していきたいと思っております。

委員会メンバーだけではアイデアも限られておりますのでどうか会員の皆様方からもたくさんのアドバイスを頂戴できますようお願い申し上げます。



2024年度 同経会賞 受賞者

種類	氏名	ゼミ・クラブ
同経会賞	井谷 優里	本領 崇一
同経会賞	伊藤 穂香	
同経会賞	大迫 祥馬	
同経会賞	松村 光騎	高井 才明
同経会賞	豊島 未夢	小橋 晶
アカデミア	大矢 ひかる	荒渡 良
アカデミア	篠崎 駿兵	荒渡 良
アカデミア	高畑 壮吾	荒渡 良
アカデミア	森 史花	荒渡 良
アカデミア	古堤 大雅	笠井 高人
アカデミア	小林 壮太	北川 雅章
アカデミア	丸 桜子	三俣 学
アカデミア	藤田 信	宮本 大
アカデミア	堂裏 唯七	長澤 勢理香
アカデミア	磯部 昂斗	新関 三希代
アカデミア	大江 美碧	新関 三希代
アカデミア	柴田 慎士	新関 三希代
アカデミア	鈴木 大和	新関 三希代
アカデミア	中西 遥菜	新関 三希代
アカデミア	湯木 美乃里	新関 三希代
アカデミア	永井 優衣	
スポーツ	川内 俊亮	ヨット部
スポーツ	三俣 星空	空手道部
スポーツ	中川 はな	スピードスケート部
スポーツ	大原 礼慈	ソフトテニス部
スポーツ	中谷 瞭太	準硬式野球部
スポーツ	樂前 凌	カヌー部
スポーツ	五十棲 惟隼	カヌー部
スポーツ	山田 瑛太郎	カヌー部
スポーツ	原 由伍	フットサル部
スポーツ	伊東 涼哉	フットサル部
特別賞	福本 雄大	西岡 幹雄



同経会賞授与式と 同経会賞受賞者からの便り

Award



同経会賞は、経済学部専門科目の総合成績が、極めて優秀であった学生上位5名を表彰する制度です。1978年に第1回の授与が行われて以来、今年3月で48回を数える歴史ある賞です。

この間、経済学部の卒業生は約6万名を超え、同経会受賞者は総計290名になりました。今年度もこの同経会賞に加え、学術分野において優秀な成績を残された方にアカデミア賞と、スポーツ分野において優秀な成績を残されたスポーツ賞を、在学中に貴重な経験とすばらしい功績を残された方に特別賞を授与しました。卒業式と同じ日に授与式を挙行、各賞受賞者には賞状と記念品が授与されました。第48回受賞者をご紹介します。

受賞者の皆様、おめでとうございます。今後のご活躍を祈念申し上げます。



大学生活を 振り返って

中本 朱優

株式会社ワコール
〈小林千春ゼミ〉



この度は同経会賞をいただけただけなこと、大変光栄に思います。この場を借りて、大学生活を支えてくれたすべてのの方々にお礼申し上げます。

私にとって、同志社大学での4年間はとても充実したものでした。特にゼミ活動では、ビジネスプランコンテストやディベート大会など幅広い活動に参加しました。結果が思うようにならず、

悔しい思いもしましたが、仲間とともに一つの目標に向かって真剣に取り組んだ経験はとても良い思い出です。また、活動を通して自分の課題を見つめ直し、次の改善に繋げていくことの大切さを学びました。

私は現在、材料調達に関わる仕事をしています。不慣れな点も多く、仕事に励んでいます。これからも大学生活での学びを糧に、少しずつ成長していけるよう、精進して参ります。



想定外を楽しむ

飯沼 彩美

I KOMA
Language
School Pte.
Ltd.

同経会賞をいただけただけなこと、大変光栄に思います。熱心に指導して下さった先生方をはじめ、大学生活で世話になった多くの方々に感謝申し上げます。

コロナ禍の大学生活は入学前に思い描いていたものとは全く異なるものになりました。それでも今自分にできることは何かということを考えながら、学内外の多様な活動に挑戦する日々を送ることができました。振り返ると、すべてをやり切ったとは言えませんが、限られた状況の中で必死に努力してきた経験は自分の中で大きな財産になっています。

そのような経験の中で自分のやりたいうことを見つけてことができ、現在はシンガポールの語学学校で日本語教師

として働いています。異なる文化、価値観を持つ学生に日本語を教えるのは難しく、毎日が想定外の連続ですが、よりよい授業を目指して日々試行錯誤しています。その過程で、教えるだけでなく、自分自身が多くのことを学び、成長を実感しています。

今後も周りの方への感謝を忘れずに、さらに成長できるよう努力を惜しまず、精進していきます。

今に全力

四宮 翔太

株式会社ゆうちょ銀行
〈二神孝一・荒渡良ゼミ〉



この度は同経会賞をいただき、大変光栄に思います。たくさんの方、皆さんの仲間たちに支えられて同志社大学での4年間を過ごすことができました。大学生活で関わってくださった全ての方々に感謝を申し上げます。

私の大学生活は、コロナ禍から始まりました。何かと制限が多い時期で、入学当初はキャンパスにもほとんど通え

ていませんでした。そのような中でも、経済学という学問に出会い、また素敵な先生方や仲間たちにも出会えたことは幸運だったと思います。

卒業した現在は金融業界に身を置き、お客さまの資産のコンサルティング業務を行っています。大学生の頃から劇的に変化し日々と社会人としての責任感の重さに、毎日圧倒されています。それでも、なんとか全力で業務に取り組んでいます。

コロナ禍然り、社会人生活然り、自分自身が身を置く「環境」というものは容易く変えることはできないでしょう。しかし、その環境に身を置く「自分自身」はいくらでも変えられます。「今に全力」をモットーに、今後も邁進していきます。



想像とは違った 大学生活

増田 隼

公務員
(大阪高等裁判所管内)

この度は同経会賞をいただき、誠に光栄に思います。このような栄誉ある賞を受賞できるとは思っておらず、大変嬉しく感じています。

私が入学した2020年は新型コロナウイルス感染症が流行し、入学式が中止となっただけでなく、すべての講義がオンラインでの実施となり、非常に不安な大学生活のスタートでした。

一方、オンライン講義では分からないところを何度も見返したり、その場で調べたりすることができるというメリットもあり、自分なりに工夫をして学業に取り組んだことが同経会賞の受賞につながったと感じています。思い描いていた大学生活とは違うものですが、このような経験は自分自身の財産であり、今後の糧になるであろうと

前向きに捉えています。

現在は、裁判所事務官として勤務をしています。経済学とは全く違った分野ですが、経済学を学んだことで自身の視野が広がったと感じていますし、いざれどこかで役に立つものがあると思います。

海外インターンシップ生 からの報告

Report



米国での挑戦

稲山 茉佑

〈派遣先〉 I T P s t r a t e g i c



8月19日〜9月1日の2週間、アメリカでITP strategic inc. のインターンシップに参加しました。同社は、京都に本社を持つITP（石田大成社）のアメリカ支社です。私は、在学中の時間を活用し、海外で実践的・体系的に経営学・経済学について理解を深める為、本インターンシップへの応募を決めました。研修内容は、①デイリーミーティング（以下MTG）やレクチャーを通じ業務理解を深

める②クライアントの企業訪問③最終プレゼンの3点です。
1週目は、毎朝のMTGに加えITP strategic inc. の各部署の業務内容と経営状況についてレクチャーを受けました。社内には、トヨタの取扱説明書の作成を担うOM（Owner's manual）部門、翻訳事業を担うLocalization部門、WebサイトやEラーニング作成を行うSales and Production部門の3部署が有り、ここで得た学びが企業訪問と最終プレゼン作成に活かされました。2週目は、各日それぞれ、豊田通商システムズ、ミサワホーム、北米トヨタ、デンソーの4つの企業のアメリカ支社を訪問させて頂き、会社概要について何うと共に、海外での働き方を直に見る事が出来ました。アメリカと日本では、市場を左右する要因や経済状況、ライフスタイルも異なりますので、各企業のアメリカで売上を伸ばす為に行っている

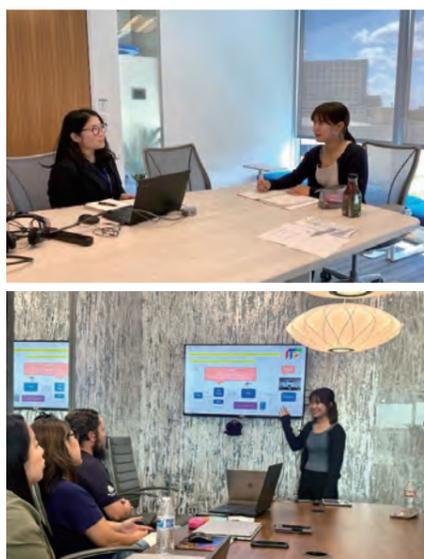


る様々な施策に興味を持ちました。最終プレゼンでは、「ITPの課題とその対応」というテーマを頂き、準備しました。知識や理解不足だと感じた点は、自ら社長や社員の方に質問し、透明性のある正確なプレゼンを心掛けました。又構成を考える際には、ストーリー性を意識し、課題解決の為の具体的な提案を行うことで、説得性を高めました。実際に私は、近年の電子化・機械化により、大幅に減少することが危惧される売上に対応する施策と、新たな人材を投入する案の2つを発表しました。

本研修を通じ「会社と事業内容の規模感」がITP strategic inc. でインターンをする利点だと感じました。社員14名の会社であり大企業ではない為、2週間で十分に社内の構造や各事業内容と戦略を理解することが出来ます。その為、最終プレゼンテーションの時点では、全体を把握した上で現状

分析と課題解決法を企業に提案する事が可能で、1社員として自身の提案を聞いていただくことが出来ました。今回得たスキルや頂いたアドバイスを、今後の大学生生活にも活かして更に学び続けたいです。

最後にこのような貴重な機会をサポートして下さい、全ての皆様に感謝と御礼を申し上げます。私は、以前から経営学・経済学に興味があり、海外インターンシッププログラムに参加したいという強い思いを持って、同志社大学経済学部に入学しました。結果的に、2年生で参加させて頂けることになり、経済とビジネスの中心地アメリカで、経営のプロセスや会社の分析法を学びました。更に、アメリカで出会った方々のキャリアのお話を聞く中で、海外駐在やグローバルに働くイメージが付ききました。この経験は、代えがたいものであり、今後の成長の軸となると考えております。この素晴らしいプログラムが、今後も学生の実践的な学びの一環として継続されると良いと思います。



海外で働くという経験

喜多瞳

〈派遣先〉 JAL Engineering
USA



私は二週間、ロサンゼルスにあるJAL Engineering USA (JECUS)にてお世話になりました。本インターシップへの参加動機は二つあります。一つ目は、昔から漠然とあった海外生活への憧れをより明確なビジョンにしたかったからです。海外での働き方を体感することで、どのようなスキルや姿勢の人が求められているのかを知り、海外での生活についての理解を深められると考えました。二つ目

は、普段とは異なる環境で自分の力をどれだけ発揮できるのかを試したかったからです。言葉も文化も異なる場所に一人で行くことは不安でしたが、自分の今の實力を試し、新しい課題を見つける良い機会になると考えました。

JAL Engineering USAは、アメリカ国内で航空機部品の調達を行う会社です。インターシップでは主に①事業内容理解②会社訪問③新規ビジネス提案の三つを行いました。以下に具体的な内容をまとめます。①JAL Engineering USAには大きく分けて三つの部門があり、それぞれの業務内容について担当の方から説明を受けまし



た。また、アメリカ現地法人を立ち上げるにあたって必要なHandbookやBylawsなどを読み込み、日本との違いについても学びました。②サプライヤーとしてHANSAIR、フォワード（倉庫業）として国際倉庫アメリカ、JALの関連会社としてJALUXとJAL AMRを訪問しました。実際に関係企業を訪問してリアルなお話を伺うことで、より詳細に理解し、一つの業務にも様々な人が関わっていることを実感することができました。③新規ビジネスの提案にあたっては、(1) JECUSが航空機事業で培ってきたネットワークやノウハウを活かすことができる(2) まだ需要が顕在化していないが将来性があり新規参入の余地がある(3) 学生ならではの視点を生かすこと、の三点を重視しました。これらに沿って、市場調査を行い、内容をWordファイルにまとめて



最終日にプレゼンを行いました。私は、ロサンゼルスが発祥の地でもあるスケートボードの部品のバイセル業務を提案しました。実際にスケートボードをしたことはなかったため、現地で暮らし、スケボーを身近に知っている社員の方々とフィードバックをいただけたのは貴重な経験になりました。

本インターシップから得た学びは主に二つあります。一つ目は積極的にポジティブな姿勢の大切さです。日本では、シャイな人が多く、自ら進んで発言しなくても「質問はない？」など気にかけてもらえる場合が

多くあります。一方、アメリカでは自ら発言をしないしていると、次々と話が進んでいってしまいます。たとえ英語力が不安があっても、ビジネスマナーが分からず自信がなくても、前のめりに自らアクションを起こすことの大切さを痛感しました。私自身、この点に関しては今後の課題だと感じました。二つ目は、将来海外で生活するというビジョンの明確化です。初めてのことが多く苦労することはありましたが、そのような環境だからこそ、なりたい自分と今の自分とのギャップを明確に意識することができ、自己理解や成長に繋げることができました。この二週間を通して、これからは様々な場所で、色々なことに挑戦し、より強くタフになりたいと感じました。



新興国ビジネスを体験し 学んだこと

大家衣濃理

〈派遣先〉ダイキン工業タイランド社



私はダイキン工業タイランド社（以下、DIT）でお世話になりました。私は新興国におけるビジネス展開や技術発展に興味があり、本インターンシップを通してこれらを実際に見、体験して自身の将来ビジョンを明確なものにすることを目的に参加しました。

DITではプロダクトマーケティング部に受け入れていただき、「タイのZ世代のための5年後のほしい住宅用エアコンの提案」をテーマに活動に取り組みました。ここで、活動のなかから特に学びの多かった3つを取り上げたいと思います。

1つ目はFUHAでの研修です。FUHAは「空気」を実際に体感したり、エアコンについて学んだりすることができるとのことです。ここでは、普段意識することのない空気について考え、ダイキン工業のもつ高い技術力を学びました。また、タイにおける空気汚染課題の解決に向け、DITが現地大学の教授と協力して空気質ラベリングの実現に取り組んでいることを知り、

「空気」をビジネスの根幹に据える企業として環境問題に真摯に取り組む姿勢を感じました。

2つ目は工場見学です。工場見学ではDITの製品が製造される過程を学びました。工場では部品の運搬・回収や組み立て作業の足場に「カラクリ」が活用されており、付加価値のないことを削減する取り組みを学びました。また、製品だけでなく製造過程でも絶えず発展しているのだと感じました。

3つ目はマーケットビジットです。実際にエアコンの売り場に訪れ、ディーラーの方からお話を聞いたり、各ブランドのエアコンがどのように展示されているの



かを見たりしました。

テーマであるZ世代に人気なエアコンの傾向や、目を引くブランドの展示について実際にお聞きし、また見ることで提案の起点を得ました。

最終日のテーマについての発表では、タイZ世代の「自己表現を好む」という特徴を踏まえ、特にエアコンの外装に注視し自由にカスタマイズできるものを提案しました。マーケットビジットで足を止めたブランドの売り場には、他社の一般的なエアコンの外装とは一線を画したものがあつたことが考えるヒントとなりました。講評の際、着眼点やアイデアが面白いとのコメントをいただき、とても嬉しかったです。ただ、実際に働くとなれば今回は度外視した項目（価格・コスト）のほかに競合他社の強みなどを考えながら差別化を図らなければならず、改めてその難しさを感じました。

今回のインターンシップを通し、新興国におけるリーディングカンパニーとしてのビジネス展開や生産



過程に至る日々の技術発展を学ぶことができました。そして、食事会などで実際に社員の方々からお話をお聞きすることで、自身と向き合い、これからのビジョンを明確に描く契機となりました。

最後になりましたが、ダイキン工業様、同経会の皆様、この度は貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。この経験を糧に、今後とも精進して参りたいと思います。そして後輩の皆様、海外インターンシップは様々な契機やヒントを得られる貴重な機会です。そしてここでの経験によって、ご自身の進路を決定する際に選択肢を増やせるかもしれません。ぜひチャレンジしてみたいと心から思います。

グローバルで活躍する 将来像を描くために

辻巻亮

〈派遣先〉ダイキン工業タイランド社



私は、8月25日から9月7日の2週間、私はタイのバンコクにてDaikin Industries (Thailand) LTD. (以下、DIT) のインターンシップに参加しました。インターンシップの参加にあたって、私には達成したい目標がありました。それは、「世界で活躍するために必要な要素を明確にする」ということです。近年、グローバル化やデジタル化の進展により、日本国内においてもリモートワ

クなどを通じ、海外の人々と関わる機会は増加しています。この傾向は将来ますます進展し、日本の労働者には異なるビジネスマナーやコミュニケーションスキルの習得が不可欠になると私は予想しています。そこで、私は本インターンシップを通じて、新たな価値観に触れ、グローバル人材に必要な視点や姿勢を学びたいと考えました。

DITでは「タイのZ世代が5年後に買ってくれるエアコン」をテーマに商品企画に取り組みました。主に取り組んだことは2つです。1つ目は、現状分析として、様々な場所から商品開発に必要な情報を収集しました。具体的には、ダイキン工業のエアコン展示場



ですが、それ以上に大切なことは相手のバックグラウンドを受け入れながらも、積極的に自分の考えを伝えようとする姿勢だと学びました。この経験から、残りの大学生活は、国籍に関わらず様々な人々と関わる機会を自主的に見つけていきたいと思っています。

最後にはなりますが、ダイキン工業株式会社様、同経会の皆様、この度は貴重な経験をさせていただきありがとうございます。今回の学びは、自身のキャリア形成のためだけでなく、人生の価値観を大きく変えるような機会となりました。今後もグローバルで活躍する人材となるように日々尽力していく所存です。そして、後輩の皆様、海外で働くことに少しでも興味を抱かれている方がいらっしゃいましたら、本インターンシップへの参加を強くお勧めいたします。国内では得る事が出来ない貴重な経験や学びは、皆さんの将来をより一層豊かなものにしてくれます。ぜひ挑戦してみてください。

ながらも、タイ人の特徴を捉えることが出来たのは、社員さんの支えがあったためだと思います。以上の2週間での取り組みからは、自分の意思を拙くとも積極的に伝えようとする姿勢の重要性を学びました。調査中は相手がタイ語のみしか話すことが出来ず、意思疎通が難しい場面もありました。しかし、翻訳アプリとジェスチャーを使って必死に伝えようとする、相手も必死に自分の伝えたいことを汲み取ろうとしてくれました。海外で働く上で、言語や文化は必ず壁として現れます。もちろん最低限の英語力は必要



と工場の視察、家電量販店訪問、DITより提供していただいた顧客データの分析などが挙げられます。タイ人の特徴を正確に掴むために、この工程には特に時間をかけました。2つ目は、収集した情報を比較しながら自分たちのターゲット顧客がどのような商品を探しているのかを分析しました。私たち日本人の固定観念が分析結果に入り込んでしまうことを最も避ける必要があったため、分析結果から自分たちの仮説を立てる度に同世代のタイ人社員に自分たちの考えを伝え、率直な意見を求めました。膨大な量のデータを分析し

現役学生が語る 「わがゼミ」

※原稿の提出順に掲載しております。

Seminar report



横井 和彦 ゼミ 高島 大介

横井ゼミをひとりで表すとしたら、それは「自主自立」ではないでしょうか。ゼミはとにかく自由であり、自主性が重んじられています。ゼミのメンバーは中国出身、体育会所属、大規模サークルのリーダーなど多様で個性的なメンバーが属しています。そのためゼミの中ではお互いの価値観を共有し、文化の違いにも気付けられた貴重な機会でした。

2年次では中国経済についてグループワークと発表を主に行いました。3年次ではグループごとに対中ビジネスバーチャルカンパニーを企画・運営し、最後には名城大学経営学部田中ゼミとの合同ゼミで発表しました。中国の文化や経済への造詣を深めた上で実際にビジネスを自ら発案し、経営計画を立てるところまで高度なスキルを身につけることができました。

横井ゼミでは横井先生のもとで皆充実した学生生活を過ごしていると感じています。ゼミが終わってからメンバーでご飯に行ったり、そこでは普段話せないことを相談し勇気をもったり、横井先生のお人柄には感服しました。コロナで制限されていた分、ゼミではそれを取り戻すかのように活発に交流させていただき感謝しかありません。メンバーそれぞれ進路が違いますが、また集まりたいと思えるような最高のゼミでした。



西岡 幹雄 ゼミ 榊原 潤

私たちは、西岡幹雄先生のご指導のもと、「地域の潜在価値の発見と新たなインフラの展開」コロナ後の地政学リスクをふまえた地域・都市のあり方と世界の変容」をテーマに、輪読で得られた知識を活かし、プロジェクト研究を行っております。現在は日本全国様々な地域に焦点を当て、地場産業やホテル産業、温泉・銭湯、廃校、畜産業、スタートアップなど幅広い分野に関して、地域の潜在価値の探求を行っています。

また、昨年に引き続き南山大学、大阪経済大学との交流フォーラムを実施し、研究報告を行いました。普段の授業では得ることのできない違った角度からの意見をいただき、研究をより一層深めることができる貴重な機会となりました。

ゼミ活動では懇親会やゼミ合宿などを行い、共に学ぶ仲間との絆を深め、切磋琢磨しながら実りある学生生活になるよう、日々活動に励んでいます。



三保 学ゼミ 佐藤 健人

現在、総勢47名のわがゼミは、環境経済学を研究しています。2回生はまず研究の楽しさを知り、3回生では社会調査の方法論を学ぶというように、研究のいろはを段階的に習得していきます。そして、4回生での卒業論文の執筆へと至ります。その間、三保先生は、我々が主体的に研究を進められるような手がかりを示唆してください

います。

また、2、3回生は、秋学期にグループでの共同研究を行い「六大学合同ゼミ」に臨みます。この合同ゼミは、環境経済・政策研究に意欲的に取り組む、6大学のゼミ生が一堂に会し、研究発表を行う貴重な場です。今年も、教授陣が座長を務め、学生による報告、質疑応答、活発な議論が交わされました。フィールドワークも行われ、理論と実践の両面において学問的な刺激に触れられた時間でした。

その他にも、ゼミ活動は一年を通して知見に溢れています。3回生は、合宿として、1月に滋賀県の比良山から琵琶湖にそそぐ水を追って集落を歩き、学びを深めました。今後もゼミ生一同、研究活動に精進していく所存です。



新関 三希代 ゼミ 小野田 遥人

私たちは、新関三希代教授のご指導のもと、日銀グランプリ、資産形成学生論文アワード、そして日経ストックリーグの3つの論文大会に出場いたしました。本年度も昨年度に引き続き、新関先生や先輩方をはじめ、OB・OGの皆様や学外の方のご協力をいただき、大変充実したゼミ生活を送ることができました。

日銀グランプリでは「外資系企業誘致による地方創生」に関する政策提言を行い、優秀賞を受賞し、また「持続可能な物流革新」に関する政策提言では奨励賞を受賞いたしました。資産形成学生論文アワードでは、「若年期から自律的に資産形成を行うための金融教育」に関するテーマのもと論文を執筆し、敢闘賞を受賞いたしました。

日経ストックリーグでは青山学院大学とインターゼミナールを実施するなど、約4か月間にわたる論文を執筆いたしました。今後も、ゼミを支えてくださるOB・OGの皆様、そして新関三希代教授への感謝を忘れずに全力でゼミ活動に取り組んでまいります。



迫田 さやか ゼミ 山田 優太

こんにちは。迫田ゼミ3期生（3年次生）ゼミ長の山田優太と申します。私たちは主に計量経済学の手法について、迫田先生のご指導のもと、学び、活動しております。2年次生は、計量経済学のテキストを用いた発表を通して理解を深めました。また、エクセルを用いて実際にデータ分析を行い、実用的な分析力も身に付けました。3年次生は、2年次生の時に学んだ知識を生かして、「ISFJ日本政策学生会議」という論文大会に向けて、チームごとに分かれ論文執筆を行いました。その中で、論文のプレゼン資料の作成なども行いました。それぞれがチーム一体となって努力した結果、1チームが「分科会賞」を受賞しました。4年次生は、これまでの経験を活かし、個人で卒論の作成に取り組めます。

これらの活動をベースとし、合同ゼミ・インゼミなどの活動も通して、論理的思考力や数学的思考力を高めています。また、迫田ゼミでは、同志社大学経済学部OB・OGの方々による勉強会が多く設けられ、就活の相談など将来について考える機会がたくさんあります。こういったOB・OGの皆様、迫田先生、その他私たちの活動を支えてくださっている皆様への感謝を忘れずに、ゼミ活動に全力で取り組んでまいります。



岩澤 政宗 ゼミ 下條 尚輝

こんにちは。岩澤ゼミでは、2年次生3名と3年次生3名で、統計学や計量経済学の理論と実証の学習を進めています。統計分析を行うゼミは同志社大学経済学部には数多く存在します。その中でも私たちのゼミが持っている特徴は、統計学や計量経済学の理論の理解を徹底した上で分析手法を学ぶことです。2年次でも3年次でも、ゼミの時間は主に統計ソフトのRを用いた分析手法の学習を輪読形式で行っています。具体的には、回帰分析をはじめ、計量経済学の実証論文で頻りに用いられている因果推論について学習しています。学問の性質上、数式も多く登場します。先述の通り理論理解を徹底して行おうとすると、一人では難しいことも多々あるため、ゼミ生からの質問も多く出ます。私たちは少人数ゼミであることを活かし、ゼミ生全員で質問に対して思考し、時には先生も交えて議論することで充実した時間をつくりあげています。

また、ゼミとは別の時間に数理統計学の書籍を用いた統計理論の学習も自主ゼミとして行っています。これはゼミ生が主体となつて計画したものです。自主的に学習し、活動を定めることができるのも私たちのゼミの特徴です。



奥田 以在 ゼミ 11期生 幹事一同

2024年度の奥田ゼミでは、京都の職人や老舗に関する研究を行うとともに、ゼミの一環として合同ゼミやEVEE出店に取り組みました。私たち3回生は、「京金網」「日本酒」「京豆腐」をテーマに掲げ、FW（フィールドワーク）を中心に研究を進めています。企業の方へのヒアリングを通して、論文等の資料からは読み取ることが難しい現場のリアルを実感するとともに、研究に活かすことができている。

10月に京田辺キャンパスのデイヴィス記念館にて、3学年が集まり交流する合同ゼミを催しました。先輩方や後輩たちと時間を共有する機会は少ないですが、この日は学年を越えてクイズ大会やスポーツで交流を深めました。EVEE班は「暖かくて旨いもの」をコンセプトにトッポギとオムク（韓国おでん）を販売しました。韓国人の留学生とともに現地の味を追求するため、唐辛子粉の選定や出汁の取り方など試食を重ねました。当日は奥田先生や諸先輩方のご協力をいただきながら3日間で約900食を売り上げました。先輩方の更なるご活躍をゼミ生一同心からお祈り申し上げます。



菅 一城 ゼミ 濱崎 葵

みなさんこんにちは。私たち菅ゼミでは、各自興味のある分野でテーマを設定し、2年次の秋学期から約2年半にわたって卒業論文に向けて研究を進めています。1セメスターに1人2回、新しく研究したことや自分の考えなどを発表します。その際、ゼミ生全員が感想を述べたり質問をしたり、発表の内容について議論します。この議論により、新たな気づきや学びを得ることが出来、ゼミ生同士で切磋琢磨しながら、研究をより良いものに上げていきます。時に、テーマに迷いが生じたり、方向性が定まらなかつたりしたこともありましたが、菅先生が的確にアドバイスをくださり、サポートしてくださいます。このように、研究や発表を全て個人で行うため、主体性や責任感を磨くことが出来ます。

さらに、一人ひとりが異なるテーマで研究を進めているので、普段馴染みのない分野に触れることが出来、視野が広がります。今後もゼミ生一同、菅先生にご指導いただきながら、ゼミ活動により一層邁進してまいります。



大谷 実 ゼミ 高岡 俊希

こんにちは。大谷ゼミ一期生です（今年度に開講した新しいゼミです）。現在、2回生3人で活動し、ヨーロッパの近現代史について勉強しています。2回生では、ドイツを中心にヨーロッパの歴史について輪読を行い、全員で発表し、意見交換しながら基礎的な勉強を行いました（今年度の課題図書…石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』）。

3回生になると輪読に加え、卒業研究に向けた各自の研究課題について発表と議論をします。研究課題は、ドイツやヨーロッパに限定されているわけではなく、先生やゼミ生と話し合いながら決定できます（現在関心のある地域…アメリカ1名、ドイツ2名）。今年度の校外活動では、神戸で移民文化に関するフィールドワークを行いました。写真は北野異人館の萌黄（もえぎ）の館で撮影したものです。北野異人館では海外の伝統的な建築様式や文化を実際に間近で見たり、当時の生活の様子を知り、楽しく学習できました。第一期生ということ、先輩がいなくても、先陣がいない中で一から作り上げる苦労はありますが、ゼミ生たち全員で協力しながらゼミ活動を充実させていきたいと思っています。



和田 美憲 ゼミ 中俣 真菜美

こんにちは。和田美憲ゼミです。私たちのゼミは「行動経済学」をテーマに、日々学びを深めています。2年次の秋学期には、グループでのプレゼンテーションを通じて、行動経済学のベースを学び、データ分析ソフトSPSSの演習を行いました。和田先生は授業でのコミュニケーションを大切に、私たちの身近な経験に結び付け、楽しく面白い授業をして下さいます。

また、2024年最後の授業ではクリスマスパーティーを開催しました。ピザとドーナツをかけてチーム対抗でイントロクイズや〇×クイズ、ジェスチャーゲームを行いました。ゼミ生同士だけでなく、和田先生とも交流を深めることができ、楽しいひとときを過ごすことができました。私たちは、仲間との繋がりを大切に、互いに助け合い、高め合いながら充実したゼミ活動を目指して全力で取り組んでいきます。「自分たちの理論を見つける」を最終目標に、今後行動経済学の理解を深め実践的な知識を身につけていく所存です。



河島 伸子 ゼミ 川合 遼

文化経済を中心として学んでいる河島ゼミは、河島教授が春にフランスから帰国され、1年ぶりに完全復活となりました。今年も4回生は、ファッションや音楽、ゲーム、舞台・アイドルなど様々な班に分かれて発表を行ったり、最近の流行りや教授に知ってもらいたいことを発表する文化マーケティングを中心として、各々の趣味や個性を活かす講義を行いました。また、秋学期からは卒業論文研究を始め、各々のテーマを先輩方の卒業論文を参考にしながら執筆しました。

2024年度の河島ゼミは、想像を超える倍率となったゼミ生募集など、例年にならぬほどのまとまりを持って活動でき、河島ゼミのゼミ生として過ごせて良かったとより実感した1年間でした。今後も個性的で趣味に全力なゼミ生の発表やゼミ生募集等をInstagramへ定期的に投稿していきますので、ぜひご覧ください。（写真は今後の河島ゼミを引っ張っていく新3回生のゼミ生と河島教授です）



笠井 高人ゼミ 西部 恭平

私は「同志社大学の経済学部3年生」である。普段、授業のない時間の大半は読書に費やしている。また文学研究会の会長として、文学フリマに出店するなどの活動をしている。笠井ゼミでは主に経済学の思想史について勉強している。所定のテキストを輪読形式で各自レジュメを作成し、発表していて、少人数のゼミならではの綿密な議論が交わされている。

私は大学入学以前には自発的に読書をする経験は浅く、専門書を手にとったことはなかったが、どういふわけか、日々読書や勉強に励む友人に囲まれて、自身も休日の5、6時間は必ず喫茶店で読書をする習慣が身についた。重量感のある書籍に對峙して、格闘するという経験は、仮にそれが自身の将来の仕事に直結しなくとも人生に非常に大きい影響を与えるだろう。自らの問いに沿って本を読み続けるといふ経験が、自分自身の生と切っても切り離せないくらい常態化されることは案外、心地良いものである。反復的に日々を生きていることは、自分の特異性を際立たせている。



宮崎 耕ゼミ ニパード 恵里咲 シラー

2024年度の宮崎ゼミは28期生27名を迎え総勢79名で活動しています。2回生は「わたしたちは結局何がしたいのか」と「正しいウェブサイトのつくり方」の2つのプロジェクトに取り組み、3回生はアプリの国際コンテスト「公共交通オープンデータチャレンジ2024」に挑戦しています。4回生はAIや金融、マーケティングなどをテーマとする卒業研究を執筆しています。

ゼミオリジナルの「フェイスブック」のほか、新歓の「枝見」、「アプリクラ」の出店などの伝統は健在です。夏合宿では、台湾で「SEMICON Taiwan 2024」という国際ビジネスショーを視察し、躍進する半導体産業の活力を感じる貴重な体験ができました。

ゼミのOB・OG会である「良心会」は例年5月にオンライン、11月に会食スタイルで開催されていますが、2025年度は「ゼミ設立30周年」の特別な「良心会」が計画されています。ぜひ参加ください。

また、普段のゼミの時間にも、さまざまな年代の先輩方が来てくださっています。金曜日の午後、気軽に烏丸キャンパス・ラーニングスタジオにお立ち寄りください。現役生一同楽しみにお待ちしております。



原田 禎夫ゼミ 原 杏里

私たち原田ゼミでは、「プラスチック汚染からの脱却をめざす実践地域研究」をテーマに、世界的に注目されているプラスチックごみ問題について研究しています。春学期には、「大阪湾のごみの減少」「同志社小学校と合同ごみ調査」「観光地のごみ調査」「スポーツチームとごみの分別基準の作成」の4つの班に分かれ、

目的を達成するためにそれぞれ研究を進めています。また、北海道の木古内町でリユース食器やごみ問題に関する調査合宿を行いました。秋学期には、EVE祭で「同志社大学内に小さな水族館を作ろう」というテーマで展示を行うための準備を進めました。環境問題の現状を伝え、意識を高めて欲しいという思いで企画しました。実際に、展示する魚を自分たちで川に取りに行ったり、ポスターを作ったりしました。先生からアドバイスをいただき、ゼミ生同士が協力して試行錯誤し無事実現することができました。今後も、ゼミ活動を通して得た学びを活かして頑張っていきたいと思えます。



高井 才明ゼミ 梶 未生也

本ゼミでは、実践的なプログラミングからトレンドの情報技術まで、情報学について幅広く学べる環境が整っています。2回生ではHTMLとCSSを用いて自身のホームページを作成し、3回生ではグループワークを通して、JavaScriptを活用したオリジナルのゲームアプリを開発しました。開発では班員のアイデアを一

つにまとめる過程にやりがいを感じると共に、先輩SA（チュードントアシスタント）の丁寧なサポートを受けることで、文系学部生でも安心して開発に取り組めます。

また、学期ごとの成果物を全学年合同で発表する「縦ゼミ」を通じて他学年の研究に触れ、学年を超えた交流を深めています。さらに、新入生歓迎会や上賀茂神社の散策などのイベントを通じてゼミ生同士の親睦を図る機会も豊富です。今年度は台湾で開催された国際技術イベント「SEMICON Taiwan 2024」を視察し、世界の最先端技術に触れる貴重な体験を得ました。開発未経験者でも成長を実感できる実践的な学びの場が、このゼミの大きな特徴です。



船橋 恒裕ゼミ 甲斐 茜音

船橋ゼミでは、福祉をベースとした経済問題について、各々研究に励んでいます。近年、国内人口年齢平均が高齢化していく中で、国民年金や厚生年金、健康保険などの医療保険の制度が維持できず、制度自体が崩壊する可能性がある、という報道を見ることが増えました。現時点でそのような問題が起ると、私たちが大人になった時は税金を納めていたのに、高齢者になった途端年金が貰えなくなり、生活が困窮するということが起こりかねません。

しかし、年金問題や医療についてのどのような改革が必要なのかと考えてみても、今の私には「知識」が無いから、具体的な改善策が思い浮かびません。そのため、まずは船橋先生の元で、年金、医療、介護・福祉、雇用・失業、母子・育児、貧困、バリアフリー等、少子高齢化に伴う経済と福祉の問題に関して、基本的なことを学び、自分の考えを確立するために必要な「知識」を蓄えた上で、自ら考えをまとめ、アイデアを発表することで、私たちが全員が日本に引き合っています。また、発表後、先生によるフィードバックを通して、さらに考えを深めることができている。「少子化に連れ、政府が回収できる税金が減っていく、そしてそうなる増税せざるを得なくなる。しかしそれが家庭の貧困を招く」という負の循環が今の日本社会で起ころうとしている。そうならない為、税金をどのようなバランスでどの政策に充てるべきなのか、世間のニュースに踊らされることなく、自分自身の考えが自立している大人になるために必要な思考力を、この講義で育むことで、これからの日本社会と向き合っていきたいと、私たちが一同考えています。



東 良彰ゼミ 長谷川 陽大

2024年度の東ゼミは、全学年あわせて69名となっております。多様なメンバーが同じ曜日に集い交流を深めています。先生との距離も近く、自由に意見を交わすことが出来るアットホームな雰囲気です。そのため、学問的な議論だけでなく、将来の進路や人生に関する相談もしやすく、互いに刺激を受けながら成長できる場となっています。

飲み会やゼミ合宿などでは、私たちは先生を人生の先輩として勉強や将来の夢、恋愛に至るまで様々なテーマについて話し、先生もそれに対して親身に相談のつてくださいます。普段の演習では、先生がアメリカで学んでこられたマクロ経済学の研究に触れるとともに、私たち一人一人の関心に基づいたテーマを掘り下げ探求しています。

これらのゼミで得た経験を通じて、今後とも経済学への更なる探求とともに、人間的にも大きく成長していきたいと考えています。



荒渡 良ゼミ

松原 匠吾

荒渡ゼミでは、先生の指導のもと、それぞれが研究活動や外部のコンクールへの参加などに励んでいます。私たち3年生は「日経ストックリーグ」や「日本政策学生会議（ISFJ）」への出場を主なゼミ活動として取り組み、苦勞もありましたが、すべてのグループが無事にやり遂げ、結果を残すことができました。また、6期生となる2年生24名を新たに迎え、ゼミの雰囲気は一層活気に満ちています。2年生からは有り余るエネルギーを感じており、これが今後どのような方向へ向かうのか、とても楽しみです。

荒渡ゼミには、さまざまな個性が集まっています。学業に力を入れる者、スポーツに熱中する者、そして遊びを全力で楽しむ者など実に多種多様ですが、実直で温厚な性格はゼミ生全員に共通する特徴だと思います。先生は、そんな私たちの主体性を尊重し、支えてくださっています。ゼミは6年目を迎え、先輩方がつないでくれたバトンを次々と渡しているところなんです。私たちも、すでに後輩へバトンを託す立場になったと思うと、誇らしさと同時にどこか寂しさも感じます。縦のつながりを広げたいという先輩方の思いを、きちんと受け継いでいるでしょうか。

今後も、荒渡ゼミをさらに素晴らしいゼミにするために、私たちは日々の活動に全力で取り組んでいきます。



和田 喜彦ゼミ

美濃部 秀太

和田喜彦ゼミでは、「自然の原理原則に基づいた経済システムの実現」をテーマに、エコロジー経済学を研究しています。大学生同士の家具リサイクルプロジェクトや、学内ウォーターサーバーの使用量の計測、規格外野菜の廃棄量削減、町家活用、猫殺処分削減、養蜂と蜜源増加など実践的な研究活動を行っており、女子トイレへの生理用ナプキン設置をどう増やすかという珍しいテーマもありました。2、3年生の段階では学生主体のグループワークが中心です。学生の興味や関心を尊重しながら、自由な発想で研究を進めております。また、ゼミでは留学や就職活動を積極的に支援しており、学業と将来の目標を両立させ、充実した学生生活を送っております。4回生は個別に卒業研究と格闘し1月末に発表会を行いました。2回、3回生は先輩たちの熱意あふれる研究から多くの刺激を受けました。学年を越えた交流も重視しており、毎年学年合同ゼミ合宿を開催しています。

この合宿は、先輩や後輩との繋がりが生まれ、さらには、12月には他大学との合同環境ゼミに参加しており、他大学の学生や教員との交流を通じて研究の幅を広げ、新たな視点を学んで参りました。今後とも、和田喜彦ゼミをぜひよろしくお願いたします。



久保 徳次郎ゼミ

大場 絢心

こんにちは。私たち久保ゼミは国際金融をテーマに、2回生3名、3回生5名の計8名で日々活動しています。3回生である我々は春学期にはポートフォリオ決定に関する理論を学び、レポートを作成しました。そして現在は、為替取引のレート決定について学習しています。演習関連科目では主に、フォワード・フューチャーズ・オプションなどの為替取引の自身と価格の決定方法を理論的に学習しました。そして、エコノミクス・ワークショップという科目ではプログラミングを用いて実際に価格を求める方法を学んでいます。

この内容を学ぶにあたって、数学や統計の知識が多くの場面で必要になり、苦戦する場面も多いですが、久保先生のご指導のもと必死に学習しています。

余談になりますが、3回生はこの秋学期に初めて久保先生のテストを受けました。どんな難易度か我々は非常に不安でしたが、案の定、とても難しくその日はずつとそのテストの話をしていました。

末筆ながら、ゼミ生一同、卒業生の皆様のご活躍をお祈り申し上げますとともに、日々のご支援に感謝申し上げます。



小橋 晶ゼミ

松尾 侑

現在の小橋ゼミでは、2回生がゲーム理論をテーマとした座学、3回生が自分たちで決めた活動（ビジコン、商品開発など）、4回生では卒論の執筆を行っています。座学では2回生に3回生が授業をするという形式をとっています。3回生の活動では、今年度は産学連携を行い、カフェの商品開発に取り組みしました。クッキーやケーキ、ランチプレートなどを考案し、現在店頭で販売されています。また学祭や地域の祭りで出張販売も行い、売り切れる商品も出てくるなど、好評を博しています。

サブゼミでは2回生と3回生が混じってグループワークを行うので、縦のつながりも横のつながりも強いのが小橋ゼミの一つの特徴です。上級生と下級生のご飯会も頻繁に行われています。またゼミの同級生で旅行をしたりドライブしたりするなど、仲の良さはどのゼミにも負けません。



小藤 弘樹ゼミ

溝部 直紀

小藤ゼミでは主に地域経済や都市経済の分野を学習しています。地域の持つ文化や暮らし、抱える問題は様々ありますが、「個々の地域が持つ特徴に焦点を当てて、疑問に思ったことを調べていく」ことが主な活動です。はじめは「学習テーマが狭そう」や「内容が難しくないかな」などの不安を抱いていました。

しかし、小藤教授の専門分野である地域経済、都市経済に限らず自分が日常で疑問に思ったこと、興味を持ったことについて自由にテーマを設定し学習できるため、意欲的にゼミ活動に取り組むことができています。ゼミの先輩や教授に気軽にアドバイスをもらえる環境が整っているところもポイントです。

また、1年に1回法政大学経営学部ゼミと合同ゼミを行い、互いに研究の成果を発表し意見交流する機会があります。そこでは経済学とはまた違った視点から意見をいただくことができ、良い刺激になります。

このように小藤ゼミでは自由なテーマを掘り下げ、様々な立場の人から意見をもらいながら日々成長することができ、日々充実したキャンパスライフを過ごすことができます。



佐藤 敦紘ゼミ

山崎 円佳

私たち佐藤ゼミは一昨年に設立された新しいゼミで、「実験を通してゲーム理論を学ぶ」ことをテーマに活動しています。ゲーム理論は戦略的な意思決定を分析する学問で、ゼミでは実験を通じて理論との違いを考察し、一層理解を深めています。

2回生は、戦略型ゲームについて先行研究や行動経済学の視点をとり入れながら、グループで協力して発表しました。3回生は、春は展開型ゲームを扱い、秋はゼミ生自身がテーマを決めて各自で成果報告を行いました。責任感を持って研究を進めた経験を、今後の卒業論文にも活かしていきます。

また、ゼミで得た知識を応用してビジコンや学生プロジェクトに挑戦するメンバーもいました。勉強だけではなく、B B Qや運動会なども開催し、イベントも充実した楽しい1年となりました。

佐藤ゼミは、まだ新しいゼミですが、だからこそ主体的に活動して仲間と切磋琢磨できる環境に恵まれています。今後もゼミ生一同、全力でゼミ活動に取り組んでいきます！



竹廣 良司 ゼミ 岩佐 太智

こんにちは、竹廣ゼミです。私たちのゼミでは、「企業の組織と戦略に関する経済分析」を演習テーマとして活動しています。2回生は、12月に開催されたダイバート大会において2チームが3位入賞を果たし、昨年度に引き続き高成績を収めました。3回生は、前期に企業経済の理論を学びました。産業組織論の観点から、企業の競争戦略や価格設定、規制の影響について学び、企業行動を体系的に学習しました。

後期では、企業や産業の特徴について各自がテーマを設定し、統計解析ソフトウェアを用いた実証分析を行っています。また、本年度も経済学部への支援を受け、コンサルティング業務体験と空き家の有効活用に関する学生プロジェクトに挑戦しました。協業企業の方と連携してプロジェクトを推進し、ビジネススキルと社会人としての心構えを学ぶ貴重な経験となりました。

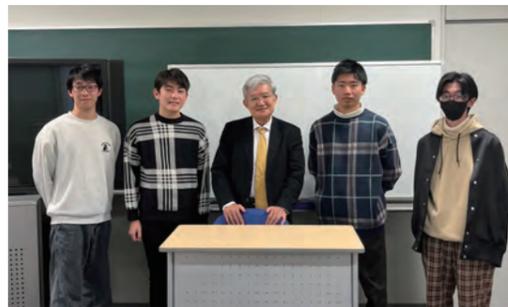
今年度はコロナ禍明け初となる2・3回生合同の合宿が行われ、多くの学びと同時に縦の繋がりが復興した1年になりました。



鹿野 嘉昭 ゼミ 半澤 優斗

ゼミの活動においては、いつも通り本の輪読を行いました。卒論に向けて、より深く経済を考えられるようになったと思います。ゼミ生個々の活動においては、前期には主に就職活動に力を入れていたと思います。先生のサポートもあり、納得のいく内定を得ることができた方がほとんどだと思います。先生の確かな就活へのアドバイスのおかげで、自分の軸を持って就活することができました。

後期では、それぞれ卒論に取り組みました。なかなかまとめることができず、私を含め苦戦する人が多かったのですが、締め切り前には無事に卒論をまとめることができ、みんな間に合いました。大学生活も残りわずかですが、たくさん遊んでいきたいと思っています。



法雲 俊栄 ゼミ 今泉 颯

私たちのゼミでは、経済×ICTについて探究し、その成果を地域貢献に結びつけて活動しています。今年度の授業では、JavaScriptやPythonを使って経済や金融教育に役立つアプリケーションの開発をしました。開発や企画の際には、グループでディスカッションをし、プレゼンテーションに議論を重ねてプログラムを完成させました。

また、学んだ知識を地域に還元する活動として、京都府との共同事業で子育て支援にも取り組みました。今年度は、デジタル社会における「金融リテラシー」、「数学&音楽」などをテーマにしたプログラミング・子ども向け教育イベントを計5日開催しました。ゼミメンバー全員で、教材作成やワークショップの準備・実施など役割を分担して、参加者にとって分かりやすく学べるよう工夫を重ねました。

地域交流や教育イベントでの経験を通じて、経済の知識を社会に活かす方法を実感する機会となりました。今後も、ゼミ活動を充実させ、実践的な学びを深めていきたいと思っています。



角井 正幸 ゼミ 松本 晴菜・谷口 瑠偉

角井ゼミでは、実証分析を通じてアメリカ経済の課題を深く理解することを目指しています。2年次には、アメリカ経済に関する多様なデータを選び、グループごとに分析を行い、エクセルを活用して相関を検証しました。この過程で、メンバー間で役割分担を行いながらプレゼンテーションを作成し、実務的なデータ分析スキルと協働力を磨く機会が得られました。さらに3年次には、ピケティ氏の『21世紀の資本』や伊東光晴氏の『ガブルレイス』を精読し、理論的な考察を深め、卒業論文に向けて研究テーマの具体化と構成を練り上げていきます。

角井先生の指導のもと、ゼミではエクセル操作や資料作成といった実務的スキルに加え、論理的思考力やチームワーク力といったソフトスキルも習得できる環境が整っています。ゼミ生同士の活発な議論を通じて、経済問題を多角的に考察する力を養いながら、研究を深めていきます。今後もチームで協力し、学びと挑戦を続けていきます！



山森 亮 ゼミ 西田 望愛

山森ゼミでは、社会や環境に関する多様な課題を学び、実践的な視点を養う活動をしています。春学期、3回生は公害問題への理解を深めることから始めました。輪読をし、基礎的な知識を得たのち、市民環境研究所に実際に訪問し、お話をうかがいました。また、学生それぞれの興味分野が広いいため、コモンズ、観光公害、脱炭素、地域活性化の4つのグループに分かれ、自分たちでコンパクトをとり企業や地域団体、市役所等に足を運びました。よりリアルな観点から課題を理解し、仮説や考えが深まったように感じます。現地に行き話をうかがうことの重要性を山森教授にご指導いただきました。

一方、2回生は持続可能な経済モデルであるドーナツ経済について学び、多様なフィールドワークを実施しました。また、仕事と育児の両立体験プログラムに参加し、家庭訪問を通じて課題を発見し、行政への提言を考えた。貴重な経験をしました。今後もさまざまな視点から社会課題を探求し、学びを深めていく所存です。



四谷 晃一 ゼミ 田中 萌恵子

四谷ゼミが主に取り組んでいる学習内容は、教育の経済学というテーマを中心に関連したテキストの輪読を行い、経済学的観点から教育の社会における役割、または教育が経済にもたらす役割について学習します。

私たちが無意識のうちに選択している個人の教育に対する意思決定が将来的な所得格差に影響していること、教育が経済発展において必要なのはなぜなのか、など様々な視点から物事の本質を見抜く力を養うことができます。また、輪読はグループで分担し学習した内容を発表形式で共有することにより効率の良い発表の仕方、資料の作成を身につけることができます。

3回生では輪読に加え今年度はベネッセスタイルケア様が開催されたビジネスアイデア大会、他ゼミの方々と合同で行うインゼミ、ダイバート大会など講義外の活動も行いました。四谷先生は私達が自分らしくいられる雰囲気を作ってください。ゼミの居心地の良さはどのゼミにも負けないです。



小林 千春 ゼミ 内藤 有希・山下 大翔

私たち小林ゼミ生は、企業情報データベースOsisirisを用いたデータ分析、ビジネスアイデア大会、アイデア大会への参加など、実践的な内容を中心としてゼミ活動を頑張っています。

2年次には全世界企業データベースから財務データを取得して統計ソフトで分析を行いました。また、同年に出場したキャンパスベンチャーグランプリ大阪では、中小企業基盤整備機構近畿本部長賞を受賞し、ファイナル審査会でのプレゼンテーション経験からアイデアをビジネスにつなげる面白さと難しさ、熱意の伝わる話し方などの多くの学びを得ることができました。

今年度の経済学部ビジネスアイデア大会では優勝、経済学部ディベート大会では9連覇を達成し、小林ゼミの伝統を引き継ぐことができました。

これらは、最後まで熱心にご指導下さった小林先生並びに諸先輩方、そして、目標に向かって互いに切磋琢磨できる仲間の存在があつてこそです。このことに感謝し、今後もゼミ活動に励んで参りたいと考えています。



谷村 智輝 ゼミ 新井 彩子

谷村ゼミでは、「グローバル資本主義の現状とそのゆくえ」と題し、資本主義社会におけるグローバル化、IT化といった現代を表すような現象が、日本の企業や経済に与えている影響を与えてきたのかについて学んでおります。

2年次秋学期から3年次春学期まで、グローバル資本主義の基礎的な内容についての理解を進めております。文献を用いたグループワークを実施することで、学生が主体的に取り組んでおります。また、3年次秋からはその学びを基に、それぞれの探求したいことを進める、卒業論文の作成の時期になります。その他、谷村ゼミでは、教室での講義だけでなく、ゼミ合宿やゼミ生の日を活用し、縦と横のつながりを強め、より深い学びへとつなげております。

谷村先生は、学生が主体的に学べたり、遊べたりする環境を整えてくださりつつ、困った時には手を差し伸べてくださることで、私たちは安心してゼミ活動に取り組むことができいております。勉強も遊びも全力の谷村ゼミです。



長澤 勢理香 ゼミ 谷井 勇斗

私たち長澤ゼミは、2回生22名、3回生22名、4回生23名の合計67名で活動しています。それぞれの学年ごとにかなり雰囲気は異なりますが、長澤先生との距離の近さはどの学年も同じで、活気のあるゼミ生活を送っています。ゼミ内では学年を越えた交流も盛んで、バーベキューなどのイベントを定期的に開催しており、横のつながりだけでなく、縦のつ

ながりも大切にしています。一方で、学業においてもメリハリを持ち、日々取り組んでいます。特に3回生は、2024年12月に開催された9大学合同インターゼミにおいて開催校を務めました。例年開催されている6大学合同インターゼミですが、今回から9大学の参加が決まり、開催地を分けることとなりました。発表に向けた研究や運営準備に追われ、繁忙を極めていましたが、ゼミ生の主体的な協力により、無事に成功させることができました。また、結果として長澤ゼミからは3チーム中2チームが賞を受賞することができました。

このように日々の活動を通じて、ゼミ生同士が成長し合いながら充実したゼミ生活を送っています。これからも、学業とイベントを両立させながら、主体的に長澤ゼミを創っていきたいと思います。



退任の教員からのご挨拶

Greeting



フィラデルフィアにそれぞれ2年間滞在する機会をいただきました。この間に新島ゆかりの地を巡る同志社グリークラブコンサートツアーの引率をしました。ボストンオールドサウス教会やラットランドのグレイス会衆派合同キリスト教会では新島が大変世話になった札を述べることができました。同志社精神の原点である改革派プロテスタントとりわけ会衆派の何たるかを体感しました。そこには神のもとに自立した個人の尊厳があり、人間が作り出した伝統や制度、物事の形式や枠組みそんなものには拘らない自由さがありました。アメリカの起業家精神はピューリタニズムの良心に基づいた合理的禁欲精神に起源があり、これは同志社建学の精神と同じものです。ちなみにボストンのルート128近辺にはベンチャー企業が集積しています。権力に衝突かめよう、独自の見解を持たせぬよう、個性を伸ばさぬようにする教育。人間の尊厳を知らず、人生の喜びを持たない、何のために生きているか分からないような人間を作り上げる教育。そのような教育は一時はそれなりに意味があったかもしれませんが、いま求められているのは新島の精神を実践する教育です。御所近辺には本郷をはるかに超える数のベンチャー企業があつてよいはずですが。

新島は戒慎す可きと遺言で言ったのですが、同志社が隆なるに従い多くの物事が機械的に流れるようになりました。美辞麗句を並べたて、新島の言葉を念仏のように唱えていてもそれだけでは前に進めません。儼不羈なる学生が絶滅危惧種になる一方、教職員からゆとりが失われているような気がします。そのような学生がいても順導することができず、ルールだからとか、非常識だとか、前例がないということ事で事を流し

入会願ひ申し込み

岸 基史



この度、同志社大学経済学部を離れることになりました。これを機に貴会へ入会いたしたく存じますので、「私の履歴書」兼志望理由書を提出いたします。

1975年、同志社創立100年の年に同志社香里高校に入学しました。京都国際会議場で開催された記念式典に出席し、新島襄の生き様に心を打たれました。他大学受験を考えて受験勉強もしていましたが、馬鹿らしくなって止めました。第1次オイルショックで生活に苦しんでいる人たちを目の当たりにし、理科数学が大好きだったこともあつて経済学部に進学しました。マスクミあるいは商社に就職して、生き馬の目を抜く

てしまう傾向にあります。常識を打ち破れ！と学生を鼓舞し、自由闊達にさせ、独立不羈の精神を涵養するのが同志社のはずです。その中から常識を打破し社会を変革させるような人物が現れることが期待される学園です。すでにできあがった組織の中で勢力争いに終始するようなあるいは得た地位いつまでもにしがみつくような人間を量産する学校にしてしまつては新島が嘆き悲しむでしょう。ましてやヒラメの養殖場にしてしまつてはいけません。

貴会は海外インターンシップで学生たちに対して物事に挑戦し見聞を広める機会を提供するなど、次世代を育む取り組みをしておられます。国内外を問わず社会の様々な分野で活躍されている多くのOB・OGの皆様方とともに経済学部を守り立てていきたいと思ひ、貴会への入会を希望いたします。よろしくお願ひいたします。

ような世界で暮れまわりたいという思いが沸きました。在阪の放送局の役員から「うちに来い」と声をかけていただきました。国会議員から「政治家になれ、まずは市会議員からだ」と誘われたこともありました。アメリカ遊学中には、「日本の大学なんか辞めちまつて、こちらで外科医になれ。学費を出すぞ」という方にも巡り会いました。どうしようか真剣に悩みました。結局、神に導かれるまま経済学部へ居座り続け、47年間も在籍卒業できませんでした。同志社創立150年の年によく経済学部から籍が抜けることになったのですが、これが卒業なのか恩赦なのか、はたまた追放なのか・・・。

在学中の1999年から2021年までは大学コンソーシアム京都インターンシッププログラムのコーディネーターをしました。プログラムが立ち上がった当初、日本でインターンといえば医学生がするもので、これは前例のない取り組みでした。大学という特殊な世界にどっぷり浸かつてしまつてはまずい、経済を探求するのであれば世間から離れてしまつてはいけないとの思いでした。貧困の中で虐待を受けた子どもを預かり、また、親を失った子どもを週末里親として受け入れたこともありました。ベトナム・ラオス国境の山岳地帯で現地の少数民族の方たちと植樹もしました。数名の学生とともに「経済学部里山きゃんぱす」を立ち上げました。このときは退学覚悟でした。手探り状態で始めましたが自由らせて下さいました。いまだ言う社内ベンチャーといったところでしょうか。地元の方々と交え、国内外の研究者や留学生たちとの交流の場にもなりました。

アメリカ独立戦争発端の地ボストンと独立宣言の地



AIとともに学び、 AIを育てる

小野塚佳光

20年後、未来の大学に入ると、そこには人工知能（AI）がいるのでしょうか？

彼女は問いかけます。（私が教師に望むような性別や特徴をAIは表します。）

何がしたいのですか？（そのとき、わたしは答えられません。彼女はそれを理解して、軽くうなずきながら、励ましてくれます。）

では、こうしましょう。・・・彼女は、私の関心に従って、さまざまな世界の姿を映像で紹介し始めます。

温暖化で失われる前の美しい自然が映り、汚染された土地や、絶滅に瀕した生き物たちの生態をみせてくれます。移民の家族が開いた小さな食堂では、その国の言葉を学ぶ母親と子供たちが映るでしょう。選挙結果を偽った独裁者を糾弾する集会に、解散を命じる兵士たちは銃口を向けます。

私たちは何度も会って話し合います。重要な事件の現場を覚えてもらい、私はそこにいたる旅をします。砂漠化で失われた湖。難民に閉ざされた国境の壁。広島島の原爆ドームと資料館。関税導入でコンテナ港にとどまる大型トラックの群れ。旅の過程でも、スマートフォンを介して彼女と対話を続けます。それぞれの問

題の理論的な先駆者や闊いの指導者たちと、バーチャルな世界で私はいつしよに考えます。

20年後の教授たちは、多くの中高齢学生と区別が付きません。AIは、教師や学生たちと対話を重ねます。AIが教師の教育貢献をデータに変え、学生一人ひとりの学習と思考の練度を記録します。

AIが伝える学生たちの質問や話題に対して、教授たちは自由に答えます。そのことが学生とAIの対話を深め、より広いテーマに導きます。

学生たちは、一日の何時間かをAIと対話し、動画を観て、確認テストを受け、エッセイを書くよう求められます。彼や彼女のスマホには複数のアプリが大学と共有され、アプリを介して学んだことがAIに蓄積されます。

講義、出題、採点は教授の仕事ではなくなり、すべてAIが担当します。教授たちは高度な研究と社会参加を求められ、キャンパスでは、学生たちとの食事会や合宿、個々の相談に応じるオフィスアワーを通じて、アカデミックなコミュニティを築くことに熱意を注ぎます。

しかし、AIが発達すれば、多くの専門職が失われると思います。大学は知識や情報、人間形成やスキル、若者のネットワークに、独自の貢献を迫られるでしょう。

大学が果たすべき社会的使命とは何か？ ガザでの殺戮を止めるために、アメリカでは多くのキャンパスで抗議集会を開きました。政治参加と社会改革の情熱は、歴史から学ぶ姿勢、人文学的な知の古典的テキストにおよぶでしょう。

公共の精神を育て、善意を広め、美を極めるAIを

同志社大学経済学部 「同経会」会員の皆様へ 太下義之

突然のご連絡となりますが、私は2025年3月をもって同志社大学経済学部を退職することとなりました。この場をお借りして、皆様に感謝の意をお伝えさせていただきます。

まず初めに、私が同志社大学経済学部に所属することになった経緯について少し触れさせていただきます。実は、私は社会人としてのキャリアの大部分を民間シンクタンクの연구원として歩んできました。その活動の中で、経済学者として世界的に著名なケインズが文化芸術の振興に果たした役割について研究したいと思いい立ち、「芸術学」の博士号を取得しました。この研究のかたわら、創造的な経済や産業に関する研究も行っており、その縁から同志社大学で教鞭を執ることとなりました。5年間という限られた期間ではありましたが、貴重な経験をさせていただきました。

同志社大学は、新島襄の教育理念が今日も伝統として、また誇りとして継承されている素晴らしい大学です。また、同志社大学経済学部には、非常に熱心で優秀な学生が多く、日々の授業やゼミでの議論を通じて、私自身も多くのことを学びました。学生たちの持つ好奇心や探究心には、いつも刺激を受け、私の研究や教

育活動の原動力となりました。私の経験や知識が、少しでも学生たちにとって価値あるものであったならば、何よりの喜びです。私が退職する今、学生たち一人ひとりの成長を見守ることができたことを誇りに思い、今後、彼らがどのように社会で活躍していくのかを非常に楽しみにしています。

正直なところ、大学教授という職を想像していなかった私ですが、同志社大学で教職の道を歩むことができたことは、私にとって大変光栄でした。

「同経会」の皆様がそれぞれの場所でご活躍される姿を拝見するたびに、同志社大学経済学部の学問の深さや、その精神がどれほど広がりを見せているかを実感してきました。私は学生たちに学問の面白さや重要性を伝えることを心がけてきましたが、皆様が社会で果たしている役割を通じて、学問が実社会でどれほど大きな意義を持つかを改めて認識させていただきました。

退職後は、これまでの経験をもとに、さらなる学問の追求や、文化芸術を通じた地域振興などの社会貢献をしていけるよう、努力を続けていきたいと考えています。また、何よりも時間的な余裕が生まれることで、より多くの人々と交流を深め、学び続ける機会を増やせることを楽しみにしています。

最後に、これまでの支えに感謝し、私が退職した後同志社大学経済学部が一層発展し、多くの優れた卒業生を輩出することを願ってやみません。また、同経会の皆様が今後ともますます活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

同経会の思い出 鹿野 嘉昭



いきなりで恐縮ですが、歴代の経済学部教員のなかで、私ほど、同経会と深いかわりを持った人間はいないかと考えております。今から25年ほど前、東京での仕事を閉じ、同志社大学経済学部に転じました。東京では、経団連がつくったシンクタンクで、不良債権問題、地域経済の活性化や社会保険制度改革に取り組んでいました。着任後、学部長から「そうした経験を活かして学生向けに講演会を開催してほしい」という要請がありました。これを受け、2000年から毎年、東京から著名な学者やエコノミストを講師陣に迎えて、講演会を開催しました。

この動きに注目されたのが秋山哲会長（2003年度までは副会長）でした。秋山さんからは「公開講演会と一緒にやろうよ」と声を掛けられ、2004年度までの2年間、同志社大学経済セミナーと銘打って公開講演会を年3回共同で開催しました。テーマは時代の先端を走り、03年度は「台頭する中国」、04年度は「激動の朝鮮半島と東アジア」でした。時宜を得たトピックであり、多数の方々に参加されましたが、如何せん、学生の参加が期待したほどではありませんでした。土曜の午後ということで、アルバイトやデートで忙しかったようです。

この講演会の開催・運営を通じて同経会とのお付き合いが深まり、多くの方々から知を得ることができました。運営に際しては、学部のためならということでも、多くの方々から労を厭わずご協力いただき、講演会はすべて盛況裡に終わることができました。われわれの準備不足などからご叱責を受けることもありましたが、寛容の精神をもってご容赦いただいたこと、あつてはならないことですが、今では懐かしい思い出となっております。

そして、この頃、秋山会長の強いリーダーシップの下で、同経会の目的に経済学部の教育・研究の充実・発展に協力することが加わったことを記憶しております。そのなかで基礎ゼミへのOB講師の派遣、工場見学、海外インターンシップなど、現在につながるプログラムが始まりました。とりわけ、海外インターンシップは現在までの間、学生から高い評価を得ています。私のゼミ生も参加の機会を得ましたが、帰国後、彼らからは異口同音、「極めて良い経験をさせてもらった」という声が聞かれました。事実、体験談を話

す際、彼らの目つきは輝き、充実したものとなっております。同経会には本当に良いプログラムをつくってもらったという印象を強く持ちました。

このほか、経済学部長時代には創立60周年を迎え、東京、名古屋および京都（2回）にて記念シンポジウムを開催した折にも、各地の会員の皆様方のご協力を得、無事に終えることができたこと、今でも感謝しております。

以上、長々と述べましたが、私はこの3月で定年退職しました。最後になりましたが、経済学部の発展に引き続きご協力いただけることをお願いして、筆をおくことにします。本当に、ありがとうございました。

新任の教員からのご挨拶

Greeting



平田 大祐



はじめまして。2024年9月に着任しました准教授の平田大祐です。着任以前は一橋大学の経済学部および社会科学高等研究院に10年弱在籍し、ミクロ経済理論を専門に研究してきました。ゲーム理論や契約理論を用いた経済メカニズムの分析全般に関心があり、まとまりのない雑多な研究をしてきましたが、近年は特にマッチング・マーケット・デザインの理論を専門にしています。

同志社大学では、研究だけでなく教育にも力を入れ、経済学の論理的な思考方法を学生の皆さんに伝えていければと思っています。経済学の理論を単なる数式ではなく、現実の問題に応用できるツールとして理解できるよう、実践的な講義を心がけるつもりです。まだまだ未熟ではありますが、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

大垣 昌夫



2024年3月末に慶應義塾大学を定年退職し4月1日に本学部に特別客員教授として任用していただきました。私は大阪大学で学部生の頃は無神論者でしたが、アメリカに住んでいたときに米国同時多発テロに衝撃を受け、当初はテロリストを憎む気持ちが強かったのですが2年ほどたつてふと我に帰り、憎しみの連鎖の中には自分もテロリストと本質的な違いはない、と思うようになりました。45歳のときに自分には家族の命を奪おうとする敵を愛することは不可能だが、神はそのような自分をだんだん無条件の愛で愛する者に成長させてくださる力をお持ちであり、無条件の愛からずれている自分の罪のためにキリストが十字架にかかれたと信じるようになりました。新島襄のキリスト教主義による徳育という考えに深く共感し、本学で教えて研究できることを喜び感謝しています。

太田 直希



昨年度より助教を務めております太田直希です。私の専攻分野は文化経済学で、同志社に創造経済研究センターをはじめとして当分野における充実した研究環境・研究蓄積があります。今般、その一端を担う立場に任用いただいたことを意気感じて、精進していく所存です。

経済学部のある今出川キャンパスは京都の中心にあり、表千家の茶を学んでおります私にとって、学問と茶道を両立して活動するうえで抜群の環境であります。昨年は拙著「茶道の文化経済学」が発売となり、文化経済学そして茶道をはじめとした諸文化の普及・発展に励んでいく気持ちを一層高めております。また「同経会のつどい」が、多くの方々との出会い、素晴らしい交流につながったこと、この場を借りて御礼申し上げます。同経会を通じて、皆様との一座建立を念願しております。よろしくお願い申し上げます。

大谷 実



2024年4月、岩手県立大学より赴任いたしました。かつて助教として3年間、本学の経済学部で勤めており、「再着任のご挨拶」が相応しいかもしれません。ともあれ、大学院時代から慣れ親しみ、思い入れのある母校に身を置くことは、望外の喜びです。

私は、ドイツをはじめヨーロッパに関心をもつ歴史家です。いまの世界を見渡すと、戦争、災害、迫害、貧困で日常生活が脅かされ、深刻な危機に瀕している無数の人びとがおります。私たちは、現実の過酷さを目を伏せがちですが、「他人事」として等閑視せず、現状を捉え、好転させねばなりません。過去を生きた人びとの歴史に学ぶことは、そうした姿勢を育む有効なトレーニングではないか：このようなことを考えつつ、授業や研究をしております。

若者たちが明るい未来を展望できるよう、同経会のみなさまとともに頑張っていければと思います。

山本 和博



2024年9月21日に同志社大学経済学部に着任した山本和博です。専門は国際経済学、都市・地域経済学、空間経済学で、経済活動の集積の原因に関する理論的な分析に関心を持っています。また、先進国での少子化の原因にも強い関心を抱いていて、その理論的な分析に関する研究も進めています。昨今の経済学はデータを使って実証をしながらはならない風潮が強まっているので、実証の手法に関する勉強をし直して、将来的には実証分析も出来たら良いな、と考えています。

同志社大学に着任以来、学校の中の明るい雰囲気、おほかたで柔らかな雰囲気、居心地の良さを感じています。これは、同志社大学の伝統を築き上げてきた先生、学生、事務職員の方々の努力によるものだと深く感じ入っております。自分もその伝統に少しでも貢献したいと思っておりますので、今後ともよろしく願っています。

第1号議案

主な計数 TOPICS 2023年度

同経会会員数	<ul style="list-style-type: none"> 支部活動活性化につとめ、会の魅力を伝えるとともに入会の促進をした 2,176名('21)⇒2,616名('22)⇒2,701名('23) 中期目標は5,000名
委員長会議開催	<ul style="list-style-type: none"> メンバー全員が出席して毎回開催した(12回開催)
財務基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> 広告宣伝募集、寄付募集などで総額224万円の収入を実現した 会員増により約11万5千円の増収を実現した
情報発信強化	<ul style="list-style-type: none"> SNSフォロワー数は300名('22)⇒330名('23) 当面の目標は1,000人のフォロワーの実現
経済学部への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 同経会奨学金制度が正式に経済学部で承認され来年度から実施(310万円/年) 同経会賞は合計27名授与(同経会賞5名、アカデミア賞13名、スポーツ賞5名、特別賞4名) 官本学部長以下総勢60名の参加を得て盛大に授与式を執り行った
学部生への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 今期より同経会の独自企画として学生プロジェクトを推進した 海外インターンシップ派遣支援再開、大手企業のサポートを得て4か国(4名)派遣
OB/OG貢献	<ul style="list-style-type: none"> 総会、各支部及びしめた会の全てで活性化。総会11月9日開催(106名)、大阪5月11日(105名)、東海9月9日(51名)、しめた会9月9日(84名)、東京11月15日(69名) 若手の役員(理事)の誕生が多くみられ、つどい以外の新たな企画の立案、開催 新支部(奈良、滋賀)の設立に向けた取り組みの検討を始めた



2024年 定時総会報告

Report

第1号議案

同経会のビジョン

「より良い同経会

魅力ある同経会

それを継続する同経会

を目指すために」

第1号議案

スローガン

いかなる組織といえども
課題が存在しない組織はない

その課題を真摯に受け取め
克服し且つ継続して実践することで

初めてその組織が存在する
目的を全うすることになる

同志社大学経済学部同経会

2024年 総会議案書

第1号議案 2023年度事業報告並びに決算報告

第2号議案 2024年度事業計画並びに予算案

第3号議案 2024年度退任役員と新任役員について

第1号議案

同志社大学経済学部 同経会

2023年度 事業報告

第1号議案、第2号議案

2023年決算及び2024年予算

貸借対照表
2024年 3月 31日 現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金預金	30,437,110	繰上金積立金	74,771,959
有価証券	51,149,918	退職給付積立金	2,500,000
預け金	13,129,580	国際交流支援基金	794,123
合計	94,716,608	合計	78,066,082

◆現金預金		(単位:円)	
みずほ銀行	当座預金	(積上金積立) 普通預金	2,516,064
		(積上金積立) 普通預金	12,619,091
		(積上金積立) 定期預金	1,000,000
ゆうちょ銀行	定期貯蓄(上)普通貯蓄	積上口座(合算入金)	4,733,814
ゆうちょ銀行	定期貯蓄(上)普通貯蓄	積上口座(半の繰入金)	8,102,202
小口預金	定期貯蓄	定期預金	1,465,939
		合計	30,437,110

◆有価証券		(単位:円)	
SAMC日経証券	広島市債券	(積上金積立)	10,000,000
	北海道債券	(積上金積立)	10,000,000
	有価証券(10年) 国債	(積上金積立)	30,149,918
		合計	50,149,918

◆預け金		(単位:円)	
野村証券	広島県公債	(積上金積立)	21,000,000
		合計	21,000,000

◆繰上金		(単位:円)	
	有価証券	合計	51,149,918
	入金金(入学金積立)	合計	13,129,580

第1号議案

2023年決算 監査報告

監査報告書

同志社大学経済学部同経会
会長 田宮 哲志 殿

私は、同経会 2023年度
(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
の決算にかかる諸帳簿及び証券書類を監査しましたところ
正確適正に表示されていることを認め、ここに報告いたします。

2024年 5月 14日
監事 小杉 将之
監事 滝田 聡

第2号議案

同志社大学経済学部 同経会
2024年度 事業計画

第1号議案

2023年度 事業報告

＜経済学部・学部生への貢献活動＞

- ① 学生支援制度創設(新設) 年間総額310万円の奨学金制度が正式に承認され、次年度からスタート
- ② 同経会賞の充実 総勢27名(同経会、スポーツ、アカデミア各賞)を3月21日卒業式で表彰
- ③ 学生プロジェクト 菓子老舗「老松」様の支援を頂き製品開発～販売を実現
- ④ 海外インターンシップ 4社(アメリカ、マレーシア、ドイツ、中国)に8月～9月に派遣

＜OBOGへの貢献活動＞

- ① 本部、支部の総会・つどい 大阪支部(5月11日開催)(参加者105名) 講師 世耕 石弘 氏
総会 (7月8日開催)(参加者106名) 講師 村田 晃嗣 氏
東海支部(9月9日開催)(参加者51名) 講師 中西 哲生 氏
しめた会(9月9日開催)(参加者84名) 講師 藤井 健志 氏
東京支部(11月15日開催)(参加者69名) 講師 林 敏之 氏
大阪支部 6月ゴルフコンペ、9月ビジネス交流会(3学部共催)
しめた会 3月同志社グルメ選交流会

② 企画立案と運営

＜活動基盤の強化＞

- ① 財務基盤強化 会報広告掲載、名誉顧問中心に寄付募集し総額224万円
会費納入促進により一昨年対比で約500人強の入会
- ② 情報基盤強化 ホームページの改修、SNSに発信促進
- ③ 運営基盤の強化 若手役員登用による会運営の活性化

第1号議案、第2号議案

2023年度決算及び2024年度予算

一般会計		2023年度決算		2024年度予算		(単位:円)		主な差異要因	
項目	2023年度決算(A)	2023年度決算(B)	2024年度予算(A)	2024年度予算(B)	対2023年度実績比(C-B)	対2023年度実績比(C-A)	主な増減要因	内訳	
前年度繰越金	13,370,018	13,370,018	0	16,650,528	3,280,508				
入会金	11,250,000	12,510,000	1,260,000	12,450,000	-60,000	(1,000円×50名(予定))			
① 終身会費積立金繰入	4,400,000	4,400,000	0	3,000,000	-1,400,000	終身会費積立金繰入			
② 寄付金	1,000,000	1,800,000	800,000	1,500,000	-300,000	寄付金			
収入の部	200,000	70,000	-130,000	100,000	30,000				
支出の部	700,000	440,000	-260,000	700,000	260,000	支出の部			
① 奨学金、学生プロジェクト費	900,000	62,500	-837,500	3,200,000	3,137,480	奨学金(1,000,000) + プロジェクト費(1,000,000)			
② 海外インターンシップ関係費	4,200,000	1,488,369	-2,711,631	2,000,000	511,631	海外インターンシップ関係費			
③ 会費発行費	500,000	483,500	-16,500	500,000	16,500	会費発行費			
④ 広報・ホームページ関係費	1,500,000	1,594,276	94,276	2,100,000	505,724	広報関係費(会報広告) + ホームページ関係費(1,000,000)			
⑤ 同経会賞・奨励金	400,000	100,000	-300,000	100,000	300,000	同経会賞・奨励金			
⑥ 名簿管理費	1,000,000	1,066,338	66,338	1,320,000	253,662	名簿管理費(名簿更新) + 印刷費(300,000) + 寄付金(100,000)			
⑦ 各支部活動費補助	200,000	412,947	212,947	550,000	137,053	各支部活動費補助			
⑧ しためた会活動費補助	400,000	399,331	-600	600,000	200,669	しためた会活動費補助			
⑨ 総会費用	50,000	73,096	23,096	100,000	26,904	総会費用			
⑩ 企画委員会関係費	3,100,000	62,782	-3,037,218	3,100,000	3,037,218	企画委員会関係費(企画費) + その他(300,000)			
⑪ 会議費	150,000	276,659	126,659	300,000	123,341	会議費(総会) + その他(100,000)			
⑫ 人件費	3,400,000	3,545,866	145,866	4,000,000	454,134	人件費			
⑬ 旅費・交通費	200,000	484,630	284,630	500,000	15,370	旅費・交通費			
⑭ 通信費	600,000	297,727	-302,273	500,000	202,273	通信費			
⑮ 印刷費	300,000	180,404	-119,596	300,000	119,596	印刷費			
⑯ 文印費	60,000	60,000	0	100,000	40,000	文印費			
⑰ 事務費	80,000	200,961	120,961	100,000	-100,961	事務費			
⑱ 雑費	35,000	65,301	30,301	60,000	-25,301	雑費			
⑲ 福利厚生費	600,000	576,585	-23,415	600,000	23,415	福利厚生費			
⑳ 名簿管理費	370,000	369,600	-400	672,400	302,800	名簿管理費(名簿更新) + 印刷費(300,000)			
⑳ 当年度支出合計(2)	17,645,000	11,752,897	-5,892,103	20,952,400	9,199,503				
㉑ 当年度収支差額(1)-(2)	118,397	3,260,509	3,142,112	-2,900,000	-6,041,888				
㉒ 次年度繰越金	13,488,415	16,650,528	3,162,113	13,611,528	-2,846,885				
合計	31,133,415	28,403,417	-2,729,998	34,613,928	6,210,508				

第1号議案、第2号議案

2023年決算及び2024年予算

終身会費積立金 (単位:円)				国際交流支援基金 (単位:円)			
項目	2023年度予算(A)	2023年度決算(B)	差額(B-A)	主な差異要因	2024年度予算(C)	対2023年度実績比(C-B)	主な増減要因
前年度繰越金	74,657,162	74,657,162	0		794,123	-1,104,540	
2 収入の部							
① 終身WEB会費	700,000	114,797	-585,203	人会費減少	100,000	-14,797	人会費減少
② 終身会費運用益*1	213,284	213,284	0		213,284	0	
③ 預金利息*2	113	115	2		115	0	
④ 当年度収入合計(1)	913,397	328,196	-585,201		313,399	-14,797	
⑤ 合計	75,570,559	74,985,358	-585,201		75,085,358	100,000	
3 支出の部							
① 事業支出(一般会計へ繰入)	4,400,000	0	-4,400,000	一般会計の支出、対予算減少	3,000,000	3,000,000	奨学金相当額を支出
② 経常費へ振替*1	213,284	213,284	0		213,284	0	
③ 経常費へ振替*2	113	115	2		115	0	
④ 当年度支出合計(2)	4,613,397	213,399	-4,399,998		3,213,399	3,000,000	
⑤ 当年度収支差額(1)-(2)	-3,700,000	114,797	3,814,797		-2,900,000	-3,014,797	
⑥ 次年度繰越金	70,957,162	74,771,959	3,814,797		71,871,959	-2,900,000	
合計	75,570,559	74,985,358	-585,201		75,085,358	100,000	

国際交流支援基金 (単位:円)				国際交流支援基金 (単位:円)			
項目	2023年度予算(A)	2023年度決算(B)	差額(B-A)	主な差異要因	2024年度予算(C)	対2023年度実績比(C-B)	主な増減要因
前年度繰越金	1,898,663	1,898,663	0		794,123	-1,104,540	
2 支出の部							
① 海外インターンシップ事業	1,000,000	1,104,540	104,540		794,123	-310,417	会費支出
② 次年度繰越金	898,663	794,123	-104,540		0	-794,123	
合計	1,898,663	1,898,663	0		794,123	-1,104,540	

第3号議案

2024年度退任役員と新任役員

副会長	退任：小平真滋郎 (S55) 荒木 勇 (S59)
財務委員長	退任：小平真滋郎 (S55) 新任：鍵 圭一郎 (H1) (専務理事と兼任)
総務支援委員会	卒業生のつどいチーム 退任：山本忠男 (H40) 長田 宏 (S52) 広報・HPチーム 新任：馬場雅彦 (S59)
企画渉外委員会	退任：中野耕太郎 (S58) 新任：福島明彦 (H20)
しめた会	新任：西田 猛 (H9) 北岡淳平 (H12) 福島明彦 (H20) 田中秀和 (H19) 首藤康宏 (H26) 小野梓 (H26) 立田志帆 (H29) 浅井香帆 (H30) 棚橋玲花 (H31) 渡辺智帆 (R3)
東京支部	支部長交代 高橋健治 (S44) → 田村憲一 (S58) 退任：濱田浩實 (S40) 新任：青木重之 (S53) 大川倫子 (H4)
大阪支部	新任：流谷輝幸 (H6) 南部隼人 (H12) 佐々木真一 (H13) 荒川有理 (H14) 天井亮介 (H16) 杉本侑亮 (H20) 太刀掛浩司 (H21) 室屋恭平 (H22) 十亀秀仁 (H24) 岡 洋文 (H25)
東海支部 理事	新任：世古佳緒里 (H14卒) 長谷優太 (H24卒) 退任：山本 清 (S40)

第2号議案

2024年度 事業計画

<経済学部・学部生への貢献活動>

- ①学生支援制度の運営 奨学金(310万円)の運用、実施にともなう課題把握と対策立案
- ②学生プロジェクトの支援 新企画の立案、企業スポンサーの探索、PDCAの質向上
- ③就職支援プロジェクト(新企画) 学部同窓会(同経会、樹徳会、政法会、理工会)での共同開催(11月開催予定)
- ④海外インターンシップ 新スポンサー(JAL)を含め継続支援

<OBOGへの貢献活動>

- ①本部、支部の総会・つどい 大阪支部(3月11日開催) 講師 坊垣 佳奈 氏
東海支部(7月20日開催) 講師 横井 和彦 氏
しめた会(7月27日開催) 講師 野村 正樹 氏
東京支部(10月3日開催) 講師 三牧 聖子 氏
総会(11月9日開催) 講師 宮本 恒靖 氏
大阪支部 6月ゴルフコンペ、10月ビジネス交流会(3学部共催)
しめた会 6月ゴルフコンペ、9月JAZZコンサートライブ
東海支部 4月若手交流会(BBQ)
- ②企画立案と運営

<活動基盤の強化>

- ①財務基盤強化 奨学金拠出による内部留保減少の補填策
インターンシップ基盤枯渇の対応策
- ②情報基盤強化 ホームページの全面改修、情報発信充実
同経会報2025年春91号発刊予定、紙媒体からデジタルでの発信転換検討
- ③運営基盤の強化 総勢28名の新役員が若手を中心に就任

第2号議案

寄付金などの使途について

寄付金などの使途に関し十分ご理解を得られる報告ではなかったため改めて使途についての考えをお示いたします。

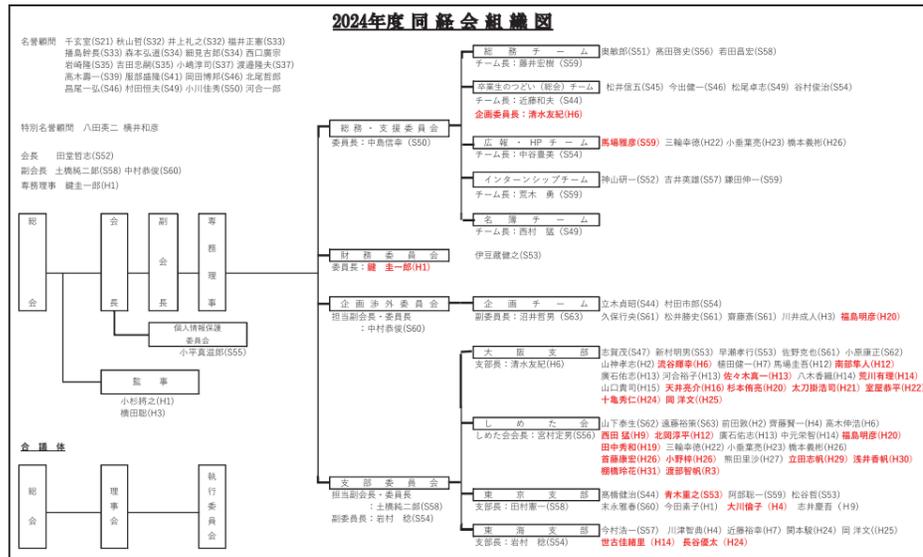
「同経会奨学金制度」が発足いたしました。

現在の同経会剰余金約7,000万円を活用しますが、毎年310万円を支出すると20年で枯渇いたします。また、海外インターンシップ財源枯渇いたしました。

今後、長きに亘り学生を支援するための財源の確保に努めて参ります。

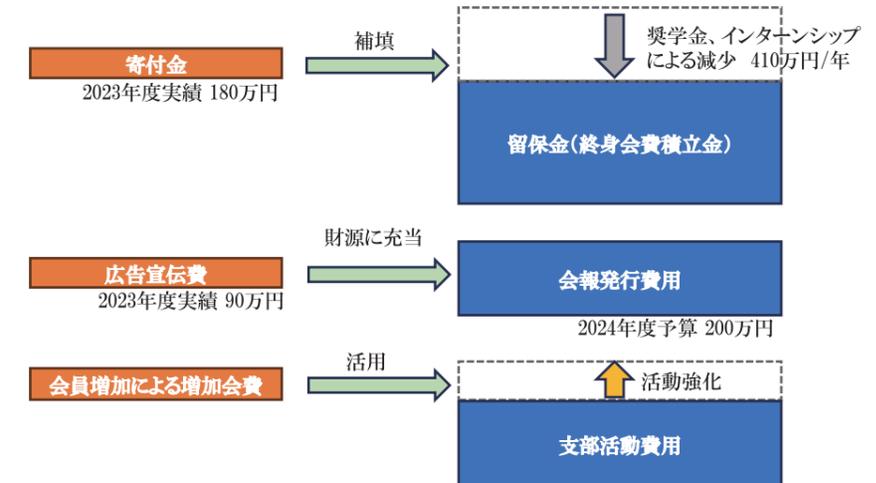
<活用方針>

- ・ ご寄付を頂いた金額はすべて奨学金、インターンシップの財源の補填にする
- ・ 広告宣伝費で提供いただいた金額は同経会報の発行費用などの財源とする
- ・ 会員の増強に伴う既卒業生の新規入会により会費が増加した金額は、支部活動の活性化のために活用する



第2号議案

寄付金などの使途について



ダイキン工業株式会社
名誉会長 井上 礼之
グローバルグループ
代表執行役員

〒530 0001 大阪市北区梅田一丁目十三番一号
大阪梅田ツインタワーズ・サウス

外務省参与
ユネスコ親善大使
日本・国連親善大使
公益財団法人 日本国際連合協会会長
文学博士
千 玄 室
(裏千家十五代・前家元)


GANKO

社主 小嶋 淳司
株式会社GANKO
[本部]
〒532-0021 大阪市淀川区田川北1-4-23
Tel: 06-6308-2288
<https://www.gankofood.co.jp>

株式会社 福寿園
取締役会長 福井 正憲

本社・工場 京都府木津川市山城町上船乗舟り道二一
電話(〇七七四)八六一三九一一

E-mail: m-fukui@fukujuen.com
URL: <http://www.fukujuen.com>

 同志社大学経済学部 同経会

会長 田堂 哲志
TETSUSHI TADO

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学経済学部事務室内
TEL: 075-251-3524 FAX: 075-251-3136
携帯: 090-4718-4578 E-mail: tado@shilosolution.jp

 株式会社 DEN

Tetsushi TADO
代表取締役 田堂 哲志

〒541-0054 大阪市中央区南本町2-5-13
ブランズタワー大阪本町3003

tado@shilosolution.jp
090-4718-4578

企業広告
名刺広告

ご協力いただきました企業様および同経
会役員の皆様、誠にありがとうございます。
ここに改めて厚く御礼申し上げます。
ご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し
上げます。

Advertisement

 株式会社 DEN
グローバルコンサルティング会社



世界基準の経営革新をご提案
あらゆる経営課題にお答えします

代表取締役
田堂 哲志

tado@shilosolution.jp
大阪市北区豊崎 3-16-16-1914号

中
谷
(宗豊)
(豊美)

〒606-8130
京都市左京区吉田泉殿町四七
TEL/FAX 075-761-2925

 同志社大学経済学部 同経会

執行理事 谷村 俊治

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学経済学部事務室内
携帯: 090-5136-3359 E-mail: potil010@icloud.com

PwC Japan 有限責任監査法人
〒600-8008
京都府京都市下京区四条通烏丸東入ル
京都三井ビル 7F
携帯 080 5761 4140
FAX 075 241 1902
keichiro.k.kagi@pwc.com



鍵 圭一郎
公認会計士
パートナー
執行役代表代行

土橋 労務管理事務所
DOBASHI LABOR AND SOCIAL SECURITY ATTORNEY OFFICE

所 長 土橋 純二郎
特定社会保険労務士

〒540-0031 大阪市中央区北浜東6番6号 アクアタワー4F
電話 06-4397-3630(代) FAX 06-4397-3631
E-mail: jdobasi@arion.ocn.ne.jp
www.dobashi-roumu.gr.jp

総合建設業(一般建築・社寺・数寄屋建築)

 株式会社 アラキ工務店
一級建築士事務所

代表取締役 荒木 勇

〒615-0906 京都市右京区梅津高畝町52-2
tel: 075-882-8668
fax: 075-872-0223
mail: i-araki@kyoto.zaq.jp
URL: https://www.kyoto-araki.jp/

サブマネージャー
宮村 定男
Miyamura Sadao

 事業承継・引継ぎ支援センター

京都府事業承継・引継ぎ支援センター
〒600-8565 京都市下京区四条通空町東入
京都経済センター7階 京都商工会議所内
TEL (075)353-7120 FAX (075)353-7121
E-mail: miyamura-sa@kyo.or.jp
https://www.kyo.or.jp/keisyo/

西村公認会計士事務所
NISHIMURA C.P.A. OFFICE

公認会計士 / 税理士
西村 猛

〒604-8175
京都市中京区室町御池下ル円福寺町 342-1
VOICE21 ビル 303号
TEL 075-708-8147 FAX 075-708-8767
携帯 090-3926-4781
e-mail: nishitake@soleil.ocn.ne.jp

株式会社 公益社
取締役会長 **松井 信五**

〒604-8175
京都市中京区烏丸通六角上ル
VOICE21 ビル 303号
TEL 075-708-8147 FAX 075-708-8767
携帯 090-3926-4781
e-mail: nishitake@soleil.ocn.ne.jp

HORIBA 

コーポレートオフィサー
管理本部長
山下 泰生

株式会社堀場製作所
〒601-8510 京都市南区吉野院京の東町2番地
TEL 075-325-5006 TEL 075-313-8121
FAX 075-321-8312
E-mail: yesuo.yamashita@horiba.com
https://www.horiba.co.jp

 **PASONA**
日本総務部

佐野克也
代表取締役社長

株式会社パソナ日本総務部
大阪市中央区北浜東4-33
北浜ネクスビル
〒540-0031
Tel 06 6910 1380
ksano@pasona-ns.co.jp
www.pasona-ns.co.jp



 同志社大学経済学部 同経会

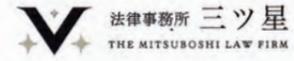
東海支部長
執行理事 **岩村 稔**

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学経済学部事務室内
TEL: 075-251-3524 FAX: 075-251-3136
携帯: 090-1284-6501 E-mail: iwachan26de@gmail.com

 同志社大学経済学部 同経会

総務支援委員長
執行理事 **中島 信幸**

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学経済学部事務室内
TEL: 090-9115-4726 E-mail: akav1609@tcn.zaq.ne.jp



法律事務所 三ツ星
THE MITSUBOSHI LAW FIRM

弁護士・税理士・中小企業診断士

廣石 佑志

Yuji Hiroishi

✉ hiroishi@mitsuboshi-law.jp

随上自衛隊予備3佐(予備自衛官)

経営心理士 / 公認不正検査士

法律事務所 三ツ星

OSAKA OFFICE

Tel. 06-6222-3035 Fax. 06-6222-3036

TOKYO OFFICE

Tel. 03-4361-1922 Fax. 03-4333-0748

www.mitsuboshi-law.jp

株式会社 齊藤 総研
齊藤賢一公認会計士事務所
齊藤賢一税理士事務所

公認会計士 齊藤 賢一
税理士

〒600-8035 京都市下京区寺町通高辻下ル京極町488

More河原町1号館 201号

TEL 080-5352-0594

E-mail: kenichi.saito@sage.ocn.ne.jp



株式会社 彩里

不動産売買仲介
既存住宅の再生利活用
相続コンサルティング・農業事業



代表取締役社長

三輪 幸徳

YUKINORI MIWA

宅地建物取引士 / 賃貸不動産経営管理士
公認不動産コンサルティングマスター
2級FP 技師 / 国内旅行業務取扱管理者
福祉住環境コーディネーター2級

同志社大学経済学部卒業。保険・建築業界
を経て、2児の子育て奮闘中です。

〒616-8352 京都市右京区嵯峨大沢落久保町5番地1
きぬかけの道(一条通)面す 広沢池西へ

E-MAIL miwa.yukinori@saito-kyoto.com

TEL 075-432-7655 FAX 075-432-7835 MOBILE 080-3813-5523

寄付へのお礼とご報告

同経会では経済学部並びに経済学部在學生への貢献と、卒業生のメリットとなる企画を立案し、実践すべく活動の一層の強化を目指しております。この活動の基盤となる同経会の財務基盤強化を図る目的に寄付をお願いしましたところ、多くの同経会員の皆様のご理解とご賛同を頂戴し、2024年度は343万円、これまでの総額は748万円のご寄付を賜りました。ここに心よりお礼を申し上げますと共に、会員の皆様にご報告申し上げます。

なお、寄付につきましては、募集期間を設けず受け付けております。今後もご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2024年度寄付

昭和34年卒業	芳崎 榮治 様	500,000円
昭和52年卒業	田堂 哲志 様	200,000円
昭和31年卒業	山城 陽一 様	100,000円
昭和33年卒業	福井 正憲 様	100,000円
昭和35年卒業	岩崎 隆 様	100,000円
昭和36年卒業	望月 保則 様	100,000円
昭和37年卒業	渡邊 隆夫 様	100,000円
昭和42年卒業	崎山 和男 様	100,000円
昭和43年卒業	水主 邦彦 様	100,000円
昭和46年卒業	北尾 哲郎 様	100,000円
昭和57年卒業	今村 浩一 様	100,000円
昭和58年卒業	下代 博 様	100,000円
昭和58年卒業	土橋 純二郎 様	100,000円
昭和60年卒業	山田 和広 様	100,000円
昭和32年卒業	井上 礼之 様	50,000円
昭和34年卒業	細見 吉郎 様	50,000円
昭和37年卒業	卜部 能尚 様	50,000円
昭和37年卒業	小嶋 淳司 様	50,000円
昭和39年卒業	武田 博泰 様	50,000円
昭和43年卒業	内山 易 様	50,000円
昭和43年卒業	中村 ケイ子 様	50,000円
昭和44年卒業	山川 寛之 様	50,000円
昭和45年卒業	田中 貞雄 様	50,000円
昭和46年卒業	岡田 博邦 様	50,000円

昭和49年卒業	田島 龍一 様	50,000円
昭和49年卒業	野田 昌弘 様	50,000円
昭和50年卒業	西田 昭博 様	50,000円
昭和51年卒業	岡 光洋 様	50,000円
昭和52年卒業	星井 敏明 様	50,000円
昭和53年卒業	若原 正彦 様	50,000円
昭和54年卒業	岩村 稔 様	50,000円
昭和54年卒業	後藤 晃 様	50,000円
昭和55年卒業	長瀬 孝充 様	50,000円
昭和56年卒業	宮村 定男 様	50,000円
昭和57年卒業	岩本 憲彦 様	50,000円
昭和59年卒業	馬場 雅彦 様	50,000円
平成1年卒業	鍵 圭一郎 様	50,000円
昭和26年卒業	眞下 喜二郎 様	10,000円
昭和30年卒業	乾 好 様	10,000円
昭和39年卒業	益国 健一 様	10,000円
昭和40年卒業	長谷川 禎三 様	10,000円
昭和41年卒業	下村 昭治 様	10,000円
昭和53年卒業	宮本 雅弘 様	10,000円

ご芳名のみ

昭和37年卒業	福永 晃三 様
昭和37年卒業	神服 一夫 様
昭和40年卒業	平川 公一 様
昭和49年卒業	圓城 満郎 様
昭和55年卒業	山内 一 様
昭和61年卒業	奥村 強志 様

匿名

50,000円	1件
10,000円	1件

2025年度寄付

昭和53年卒業	白石 雅彦 様	100,000円
昭和48年卒業	森本 啓嗣 様	50,000円

■ 大阪支部のつどい

(18 : 30 ~ 総会 18 : 40 ~ 講演会 19 : 45 ~ 懇親会)

日時 5月13日(火) 18:30~21:00

講師 杉原佳亮氏 (ネットフリックス合同会社)

場所 ホテルモントレ大阪 (7階 アマリエ)

公共政策担当ディレクター (1988年法学部卒)

◆ 3学部合同ビジネス交流会 : 9月20日開催 詳細は後日にホームページ等でご案内します

◆ 若手交流イベントを開催予定

お問い合わせ先 大阪支部事務局 小原 kohara@pharma.co.jp 植田 090-8527-8159

■ 東京支部のつどい

(総会 講演会 懇親会)

日時 11月12日(水) 18:30~21:00

会費 5,000円

場所 日本プレスセンター (10階ホール)

講師 広瀬友紀氏

(東京大学教授(心理言語学)(同志社大学文学部卒))

お問い合わせ先 東京支部長 田村憲一 kenichi.tamura@accretech.com

■ 東海支部のつどい

(総会 講演会 懇親会)

日時 9月13日(土) 11:00~13:30

講師 今田素子氏 (株式会社メディアジーン代表取締役CEO)

場所 名鉄グランドホテル

(1989年経済学部卒)

◆ 若手交流会 : 5月23日(金)開催 詳細は後日にホームページ等でご案内します

お問い合わせ先 関本 駿 shun_sekimoto@puc.aichi-pu.ac.jp

■ しめた会 (若手の会)

(講演会 懇親会)

日時 9月27日(土) 16:00~19:45

会費 5,000円

場所 からすま京都ホテル

講師 柴田茂樹氏 (株式会社ロゴスコーポレーション代表取締役社長(商学部卒))

◆ しめた会ゴルフコンペ 日時 : 5月24日(土) 場所 : ダイヤモンド滋賀カントリークラブ
会費 : 14,000円 (コンペ代、昼食代含む)

◆ その他にも音楽LIVEイベントやバーベキューなど、楽しいイベントを開催しています。
お気軽にご参加ください。

お問い合わせ先 しめた会会長 宮村定男 stmiyamura386@ybb.ne.jp 090-8937-1397



2025年5月~11月に同経会では下記イベントの開催を予定しております。
同経会員の皆様、是非ご参加ください！

2025年5月~11月の
イベント案内

Information

■ 2025年度同経会総会・卒業生のつどい (16 : 30 ~ 総会 17 : 30 ~ 講演会 18 : 40 ~ 懇親会)

日時 7月26日(土) 16:30~21:00

場所 ホテルオークラ京都 (4階暁雲の間)

講演会

講師 宮崎良一氏 (2005年商学部卒)

ブリッジコンサルティンググループ株式会社 代表取締役
公認会計士

「講師ご紹介」

2005年同志社大学商学部卒業後、監査法人トーマツ (現有限責任監査法人トーマツ) トータルサービス1部に入所。

監査法人では、公認会計士の独占業務である会計監査を中心に、IPO支援業務、内部統制支援業務、IFRS導入支援業務等、公認会計士としてさまざまな業務を経験。

5年間の監査法人勤務経験を得て、2011年に経営管理部門を総合的に支援する「株式会社Bridge (現ブリッジコンサルティンググループ株式会社)」を設立し、代表取締役に就任。

これまでに、IPOコンサルティング業務、内部管理体制支援業務、M&A業務、税務コンサルティング業務等、さまざまな経理管理業務に従事し、同社は2022年に東証の東京プロマーケットに上場、2023年には東証グロース市場に上場。

現在は、ブリッジコンサルティンググループ株式会社の代表取締役CEOとして、公認会計士に特化したプロシェアリング事業の拡大に奮闘中。



同経会役員名簿

(1/3)

役名	委員会 他	氏名	卒業年
名誉顧問		千 玄室	昭和21年
名誉顧問		秋山 哲	昭和32年
名誉顧問		井上 礼之	昭和32年
名誉顧問		福井 正憲	昭和33年
名誉顧問		播島 幹長	昭和33年
名誉顧問		森本 弘道	昭和34年
名誉顧問		細見 吉郎	昭和34年
名誉顧問		西口 廣宗	昭和34年
名誉顧問		岩崎 隆	昭和35年
名誉顧問		吉田 忠嗣	昭和35年
名誉顧問		小嶋 淳司	昭和37年
名誉顧問		渡邊 隆夫	昭和37年
名誉顧問		高木 壽一	昭和39年
名誉顧問		服部 盛隆	昭和41年
名誉顧問		岡田 博邦	昭和46年
名誉顧問		北尾 哲郎	昭和46年
名誉顧問		昌尾 一弘	昭和46年
名誉顧問		村田 恒夫	昭和49年
名誉顧問		小川 佳秀	昭和50年
名誉顧問		八田 英二	特別
名誉顧問		横井 和彦	特別
会長		田堂 哲志	昭和52年
副会長	支部委員会委員長	土橋 純二郎	昭和58年
副会長	企画渉外委員会委員長	中村 恭俊	昭和60年
専務理事	財務委員長	鍵 圭一郎	平成1年
監事		小杉 將之	平成1年
監事		横田 聡	平成3年
執行理事	総務支援(つどい)	近藤 和夫	昭和44年
執行理事	支部(東京)	高橋 健治	昭和44年
執行理事	企画	立木 貞昭	昭和44年
執行理事	総務支援(つどい)	松井 信五	昭和45年
執行理事	総務支援(つどい)	今出 健一	昭和46年
執行理事	支部(大阪)	志賀 茂	昭和47年
執行理事		萱原 昇	昭和49年
執行理事	総務支援(名簿チーム長)	西村 猛	昭和49年
執行理事	総務支援(つどい)	松尾 卓志	昭和49年
執行理事	総務支援委員長	中島 信幸	昭和50年
執行理事	総務支援(総務)	奥 敏郎	昭和51年
執行理事	総務支援(インターンシップ)	神山 研一	昭和52年
執行理事		石塚 清司	昭和53年
執行理事	財務	伊豆蔵 健之	昭和53年
執行理事	支部(大阪副支部長)	新村 明男	昭和53年
執行理事	支部(大阪副支部長)	早瀬 孝行	昭和53年
執行理事	支部(東京)	青木 重之	昭和53年
執行理事	支部(東京)	松谷 哲	昭和53年
執行理事	支部(東海支部長)	岩村 稔	昭和54年



編集後記

執行理事 広報・HPチーム 橋本義彬

Editor's note

2025年、新たな一年がスタートしました。今年も様々な出来事が私たちの前に広がり、希望と挑戦の年となることを感じています。特に、スポーツ界での注目すべき出来事として、大谷翔平選手の活躍は私たちに大きな影響を与え続けています。彼の素晴らしいパフォーマンスとその姿勢は、単に野球の枠を超えて、多くの人々に勇気を与え、「挑戦し続けることの大切さ」を教えてくれています。

大谷選手は「二刀流」という言葉を広め、野球選手としての枠を超え、世界のスポーツ界に革新をもたらしています。その姿勢は、常に向上心を持ち、限界を挑戦し続ける精神の表れです。この精神は、私たち同志社大学の建学の精神「自由な精神で、社会に貢献できる人物を育てる」にも通じるものがあります。新島襄先生が示されたように、常に変化を恐れず、未知の領域に挑む姿勢が、私たち一人ひとりに求められていることを再認識させてくれます。

2025年も、私たち一人ひとりが自らの志を胸に、常に前進し続けることが重要です。大谷選手のように、限界を超えて新しい道を切り拓いていく精神を胸に、同志社人として更なる成長を目指していきましょう。

また、同志社大学の建学の精神には、「キリスト教精神に基づき、人道を尽くし、国家を興し、世界を平和に導く人物を養成する」という深い理念が込められています。この精神は、まさに私たちが今歩むべき道を示しているのではないのでしょうか。私たちは自由な精神と倫理的な行動を通じて、変化の激しい現代社会で強

く、誠実な人物として成長しなければなりません。会員の皆様と元気な姿でお会いできる日を心待ちにしております。皆様の健康とご多幸を祈念致しまして、御挨拶とさせていただきます。

〈同経会 公式 facebook〉 同経会 - 同志社大学経済学部ob・og会 -

お持ちのスマートフォンのカメラで下のQRコードを読み取り、「いいね! ボタン」を押してください!
公式WEBサイトの更新情報、同経会で開催されるイベントをリアルタイムで発信・お知らせいたします!



経済学部卒業生の方は
ぜひご登録ください!

<https://www.facebook.com/dokeikai.doshisha/>

(3/3)

執行理事	支部(大阪)	荒川 有理	平成14年
執行理事	支部(東海)	世古 佳緒里	平成14年
執行理事	支部(大阪)	山口 貴司	平成15年
執行理事	支部(大阪)	天井 亮介	平成16年
執行理事	しめた会	田中 秀和	平成19年
執行理事	企画・しめた会	福島 明彦	平成20年
執行理事	支部(大阪)	杉本 侑亮	平成20年
執行理事	支部(大阪)	太刀掛 浩司	平成21年
執行理事	しめた会副会長・総務支援(HP長)	三輪 幸徳	平成22年
執行理事	支部(大阪)	室屋 恭平	平成22年
執行理事	しめた会・総務支援(HP)	小垂葉 亮	平成23年
執行理事	支部(東海)	関本 駿	平成24年
執行理事	支部(大阪)	十亀 秀仁	平成24年
執行理事	支部(東海)	長谷 優太	平成24年
執行理事	支部(東海・大阪)	岡 洋文	平成25年
執行理事	しめた会・総務支援(HP)	橋本 義彬	平成26年
執行理事		小寺 友樹	平成26年
執行理事	しめた会	首藤 康宏	平成26年
執行理事	しめた会	小野 梓	平成26年
執行理事	しめた会	熊田 里沙	平成27年
執行理事	しめた会	立田 志帆	平成29年
執行理事	しめた会	浅井 香帆	平成30年
執行理事	しめた会	棚橋 玲花	平成31年
執行理事	しめた会	渡辺 智帆	令和3年
理事		橋本 久幸	昭和38年
理事		田島 繁	昭和41年
理事		高橋 修	昭和44年
理事		饗庭 一慶	昭和46年
理事		池田 博義	昭和46年
理事		山本 源兵衛	昭和49年
理事		山添 俊之	昭和55年
理事		大谷 淳子	平成16年
理事		北川 雅章	特別
理事		竹廣 良司	特別
理事		新関 三希代	特別
理事		谷村 智輝	特別
理事		角井 正幸	特別
理事		宮本 大	特別

2025年4月1日現在

(2/3)

執行理事	総務支援(つどい)	谷村 俊治	昭和54年
執行理事	総務支援(広報長)	中谷 豊美	昭和54年
執行理事	企画	村田 市郎	昭和54年
執行理事	個人情報保護	小平 真滋郎	昭和55年
執行理事	総務支援(総務)	高田 啓史	昭和56年
執行理事		牧野 正裕	昭和56年
執行理事	しめた会会長	宮村 定男	昭和56年
執行理事	総務支援(インターンシップ)	吉井 英雄	昭和57年
執行理事	支部(東海)	今村 浩一	昭和57年
執行理事	支部(東京支部長)	田村 憲一	昭和58年
執行理事	総務支援(総務)	若田 昌宏	昭和58年
執行理事	支部(東京副支部長)	阿部 聡一	昭和59年
執行理事	総務支援(インターンシップ)	鎌田 伸一	昭和59年
執行理事	総務支援(総務チーム長)	藤井 宏樹	昭和59年
執行理事	総務支援(広報・HP)	馬場 雅彦	昭和59年
執行理事	総務支援(インターンシップ長)	荒木 勇	昭和59年
執行理事	支部(東京)	末永 雅春	昭和60年
執行理事	企画	久保 行央	昭和61年
執行理事	企画	齋藤 斎	昭和61年
執行理事	支部(大阪)	佐野 克也	昭和61年
執行理事	企画	松井 勝史	昭和61年
執行理事	支部(大阪)	小原 康正	昭和62年
執行理事	しめた会	山下 泰生	昭和62年
執行理事	しめた会	遠藤 裕策	昭和63年
執行理事	企画(副委員長)	沼井 哲男	昭和63年
執行理事	支部(東京)	今田 素子	平成1年
執行理事	しめた会	前田 敦	平成2年
執行理事	支部(大阪)	山神 孝志	平成2年
執行理事	企画	川井 成人	平成2年
執行理事	支部(東海)	川津 智典	平成4年
執行理事	しめた会	齊藤 賢一	平成4年
執行理事	支部(東京)	大川 倫子	平成4年
執行理事	支部(大阪支部長)	清水 友紀	平成6年
執行理事	しめた会	高木 伸浩	平成6年
執行理事	支部(大阪)	流谷 輝幸	平成6年
執行理事		伊藤 弥生	平成7年
執行理事	支部(大阪)	植田 健一	平成7年
執行理事	支部(東海)	近藤 裕幸	平成7年
執行理事	支部(東京副支部長)	志井 慶吾	平成9年
執行理事	しめた会	西田 猛	平成9年
執行理事	支部(大阪)	馬場 圭吾	平成12年
執行理事	しめた会	北岡 淳平	平成12年
執行理事	支部(大阪)	南部 隼人	平成12年
執行理事	支部(大阪)・しめた会	廣石 佑志	平成13年
執行理事	支部(大阪)	河合 裕子	平成13年
執行理事	支部(大阪)	佐々木 真一	平成13年
執行理事	しめた会	中元 栄智	平成14年
執行理事	支部(大阪)	八木 香織	平成14年



同経会報の郵送についてのご案内

平素は同経会の活動に対し格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、皆様に同経会報91号をお届けいたします。同経会報につきましては、令和4年より年1回の発行とさせていただいており、例年この時期に発行しております。なお、本年も名刺広告を掲載させていただいております。また、企業広告も掲載いたしております。ご協力いただきました皆様にはあらためて御礼申し上げます。

同経会報は同時に同経会のホームページにおいても公開いたしております。同経会では今後、紙媒体中心の情報発信からこのホームページや同じく同経会のFacebookを活用した情報発信に注力する所存です。つきましては、同経会として同経会報は本年度中に、ホームページ公開へ移行する方策を進めております。そこで、今後につきまして会員の皆様のご希望をお尋ねいたしたく、ご案内させていただきます。

次回(同経会報92号)より、紙媒体による同経会報の郵送を引き続きご希望の会員様につきましては、下記の通り事務局までご連絡いただきたくお願い申し上げます。ご連絡いただきました会員様のみ今後ご郵送させていただくことにいたします。この点ご理解いただきたくお願い申し上げます。

なお、現在、同経会報のホームページ公開は会員様以外も閲覧可能ですが、上記対応とあわせ、準備が整い次第、会員様限定の公開に変更する予定であります。

誠に勝手なお願いではありますが、何卒ご理解いただきご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

同経会報の郵送をご希望の方は、お名前、生年月日、ご卒業年、ご住所(会報の送付先)、個人ID番号(封筒の宛名ラベルに書かれている11桁の番号)を明記の上、FAXまたはメールでご連絡をお願いいたします。

< 連絡先 >

同経会事務局

FAX : 075-251-3136

メールアドレス : staff@dokeikai.com

